

2-2 水道水の水質

(1) 飲み水としての水質の満足度

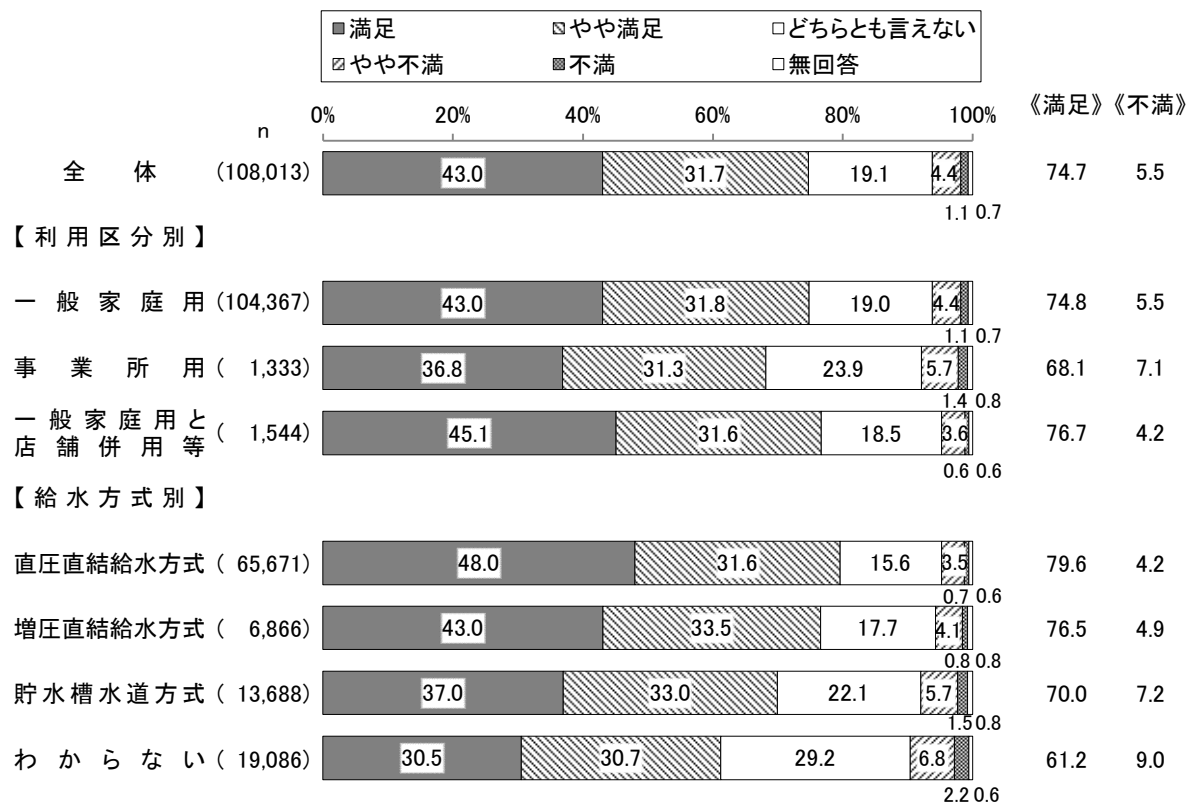
問 東京の水道水の飲み水としての水質を、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[A : 問7、B : 問6、C : 問6、D : 問7、E : 問7、F : 問6、G : 問6、H : 問7]

[調査結果]

① 飲み水としての水質の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-1〉



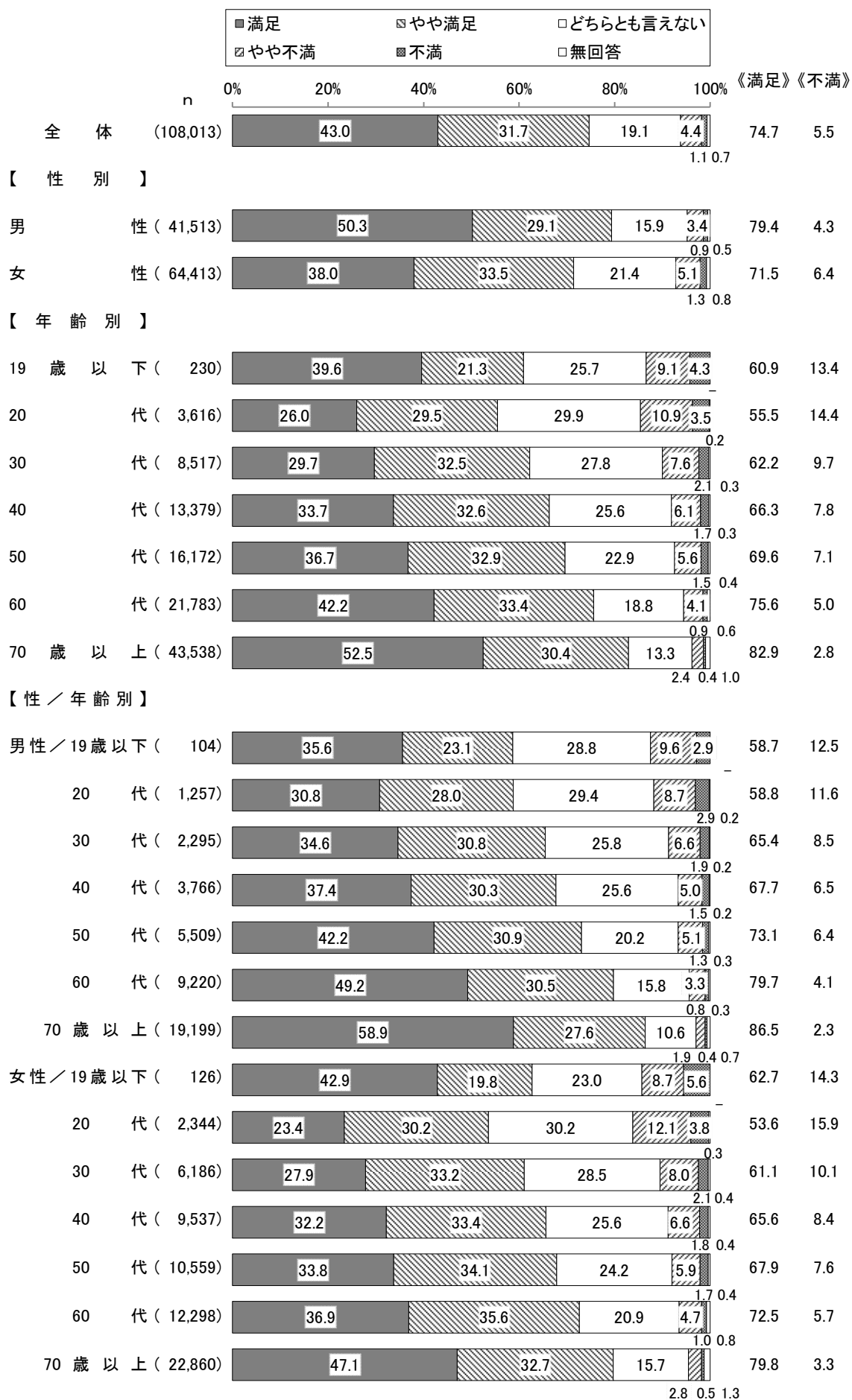
<特徴>

○全体でみると、「満足」が43.0%で最も高く、「やや満足」(31.7%)を合わせた《満足》は74.7%となっている。一方、「やや不満」(4.4%)と「不満」(1.1%)を合わせた《不満》は5.5%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で76.7%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で79.6%と最も高くなっている。

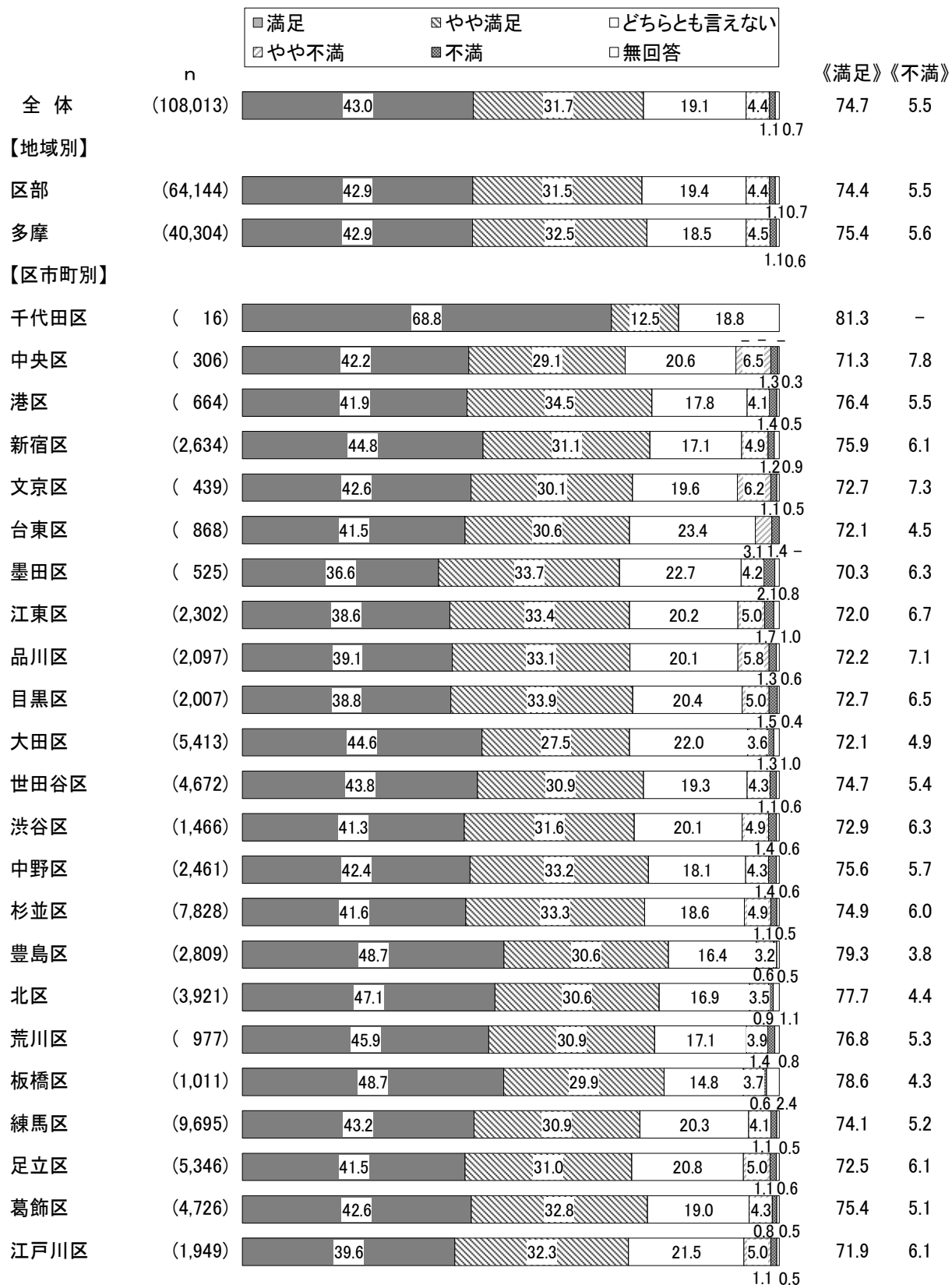
② 飲み水としての水質の満足度（属性別）〈図表２－２－２〉



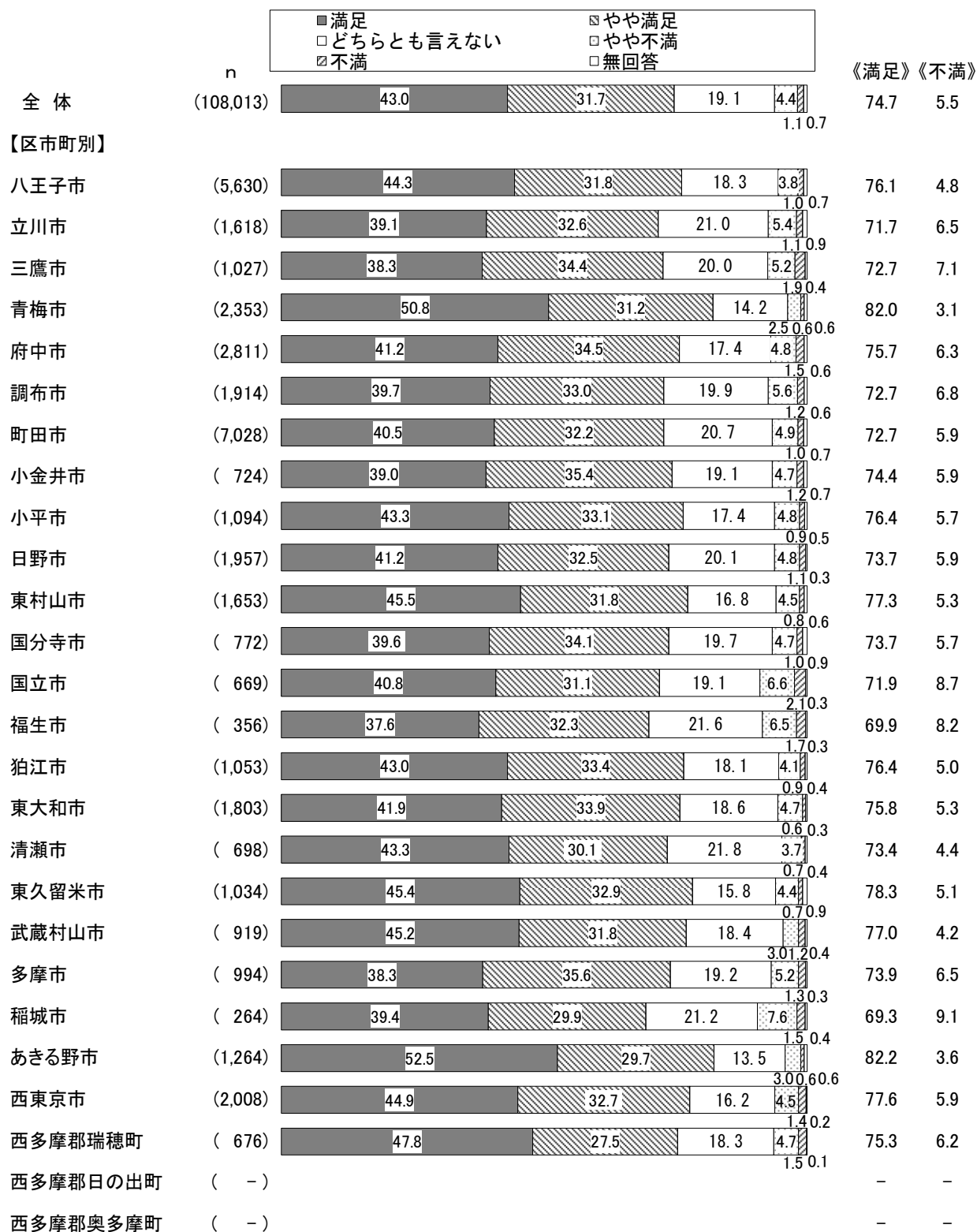
<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（79.4%）の方が女性（71.5%）より7.9ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、標本数が少ない19歳以下を除き、20代（55.5%）から年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（82.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女とも70歳以上（男性：86.5% 女性：79.8%）で高く、一方《不満》は、女性の20代（15.9%）で1割台半ばと高くなっている。

③ 飲み水としての水質の満足度（地域別、区市町別）〈図表２－２－３〉



③ 飲み水としての水質の満足度（地域別、区市町別）〈図表２－２－４〉

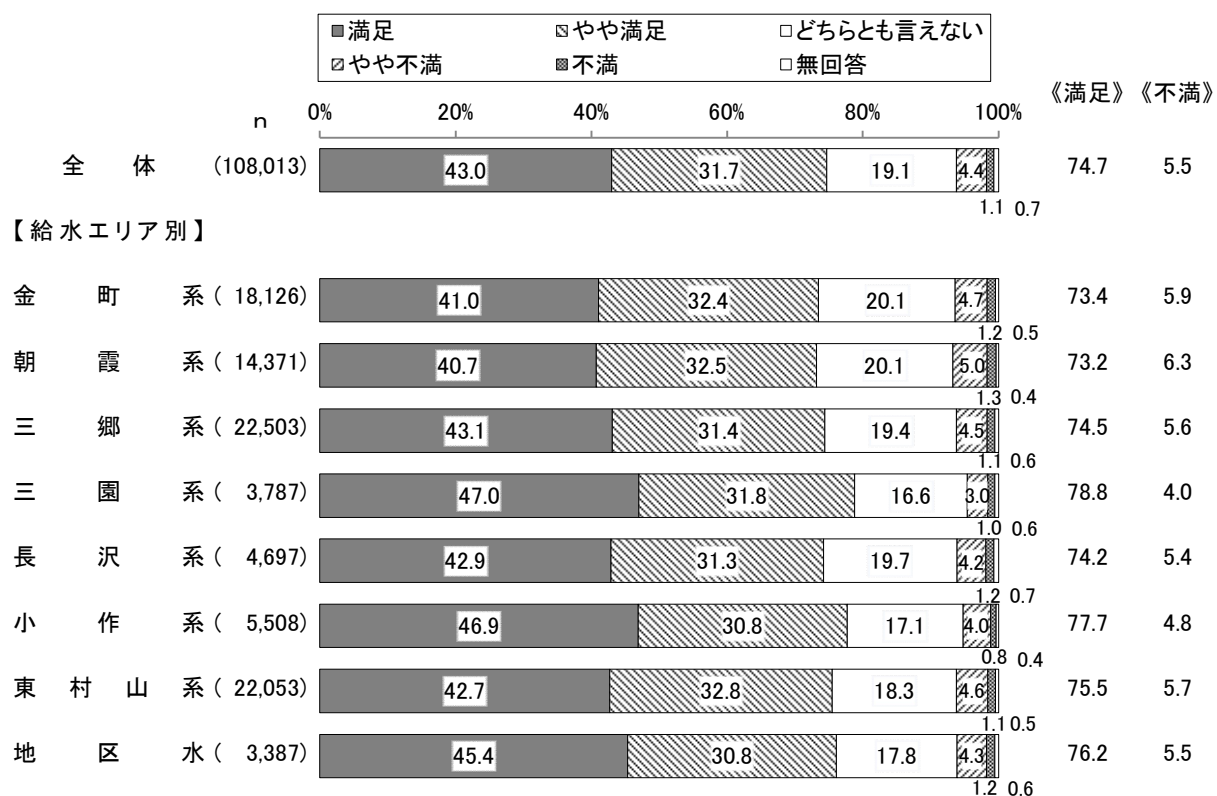


<特徴>

○地域別では、《満足》に特に大きな違いはみられない。

○区市町別でみると、《満足》は、区部では標本数の少ない千代田区を除き、豊島区（79.3%）が最も高く、次いで板橋区（78.6%）、北区（77.7%）と続いている。多摩ではあきる野市（82.2%）が最も高く、次いで青梅市（82.0%）、東久留米市（78.3%）と続いている。

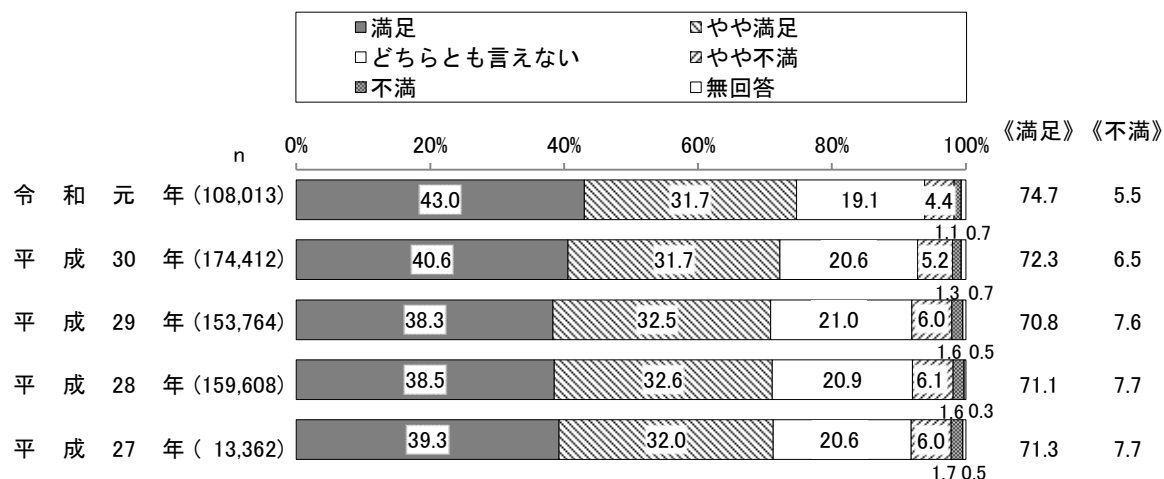
④ 飲み水としての水質の満足度（給水エリア別）〈図表２－２－５〉



＜特徴＞

○給水エリア別では、《満足》は、三園系（78.8%）で最も高く、次いで、小作系（77.7%）、地区水（76.2%）と続いている。

⑤ 飲み水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－6〉



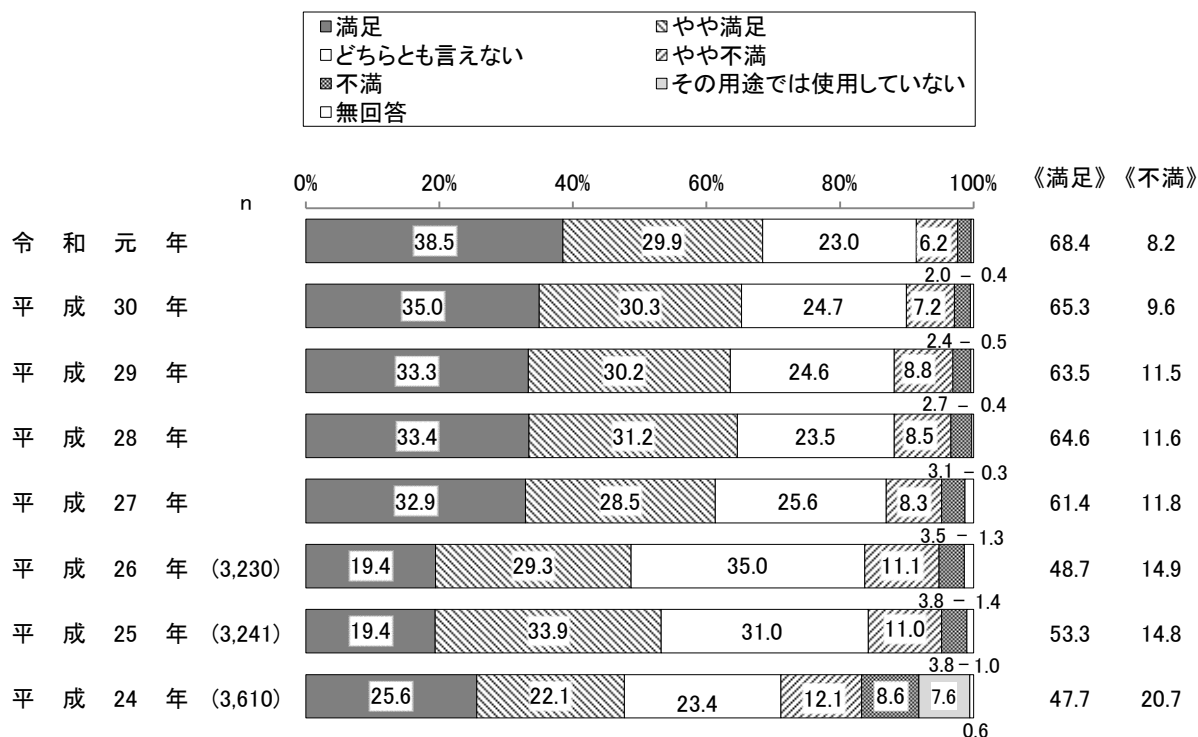
<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向では、《満足》が3.4ポイント増加している。

参考

飲み水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－7〉

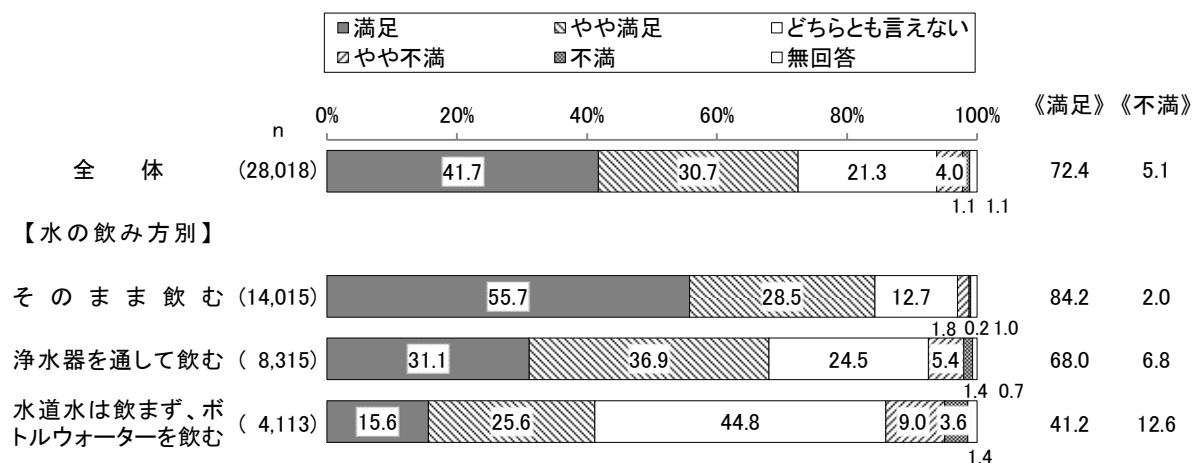


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、「満足」が38.5%で最も高く、「やや満足」（29.9%）を合わせた《満足》は68.4%となっている。「どちらとも言えない」は23.0%となっている。

[詳細分析] (分析の軸はA票E票の設問)

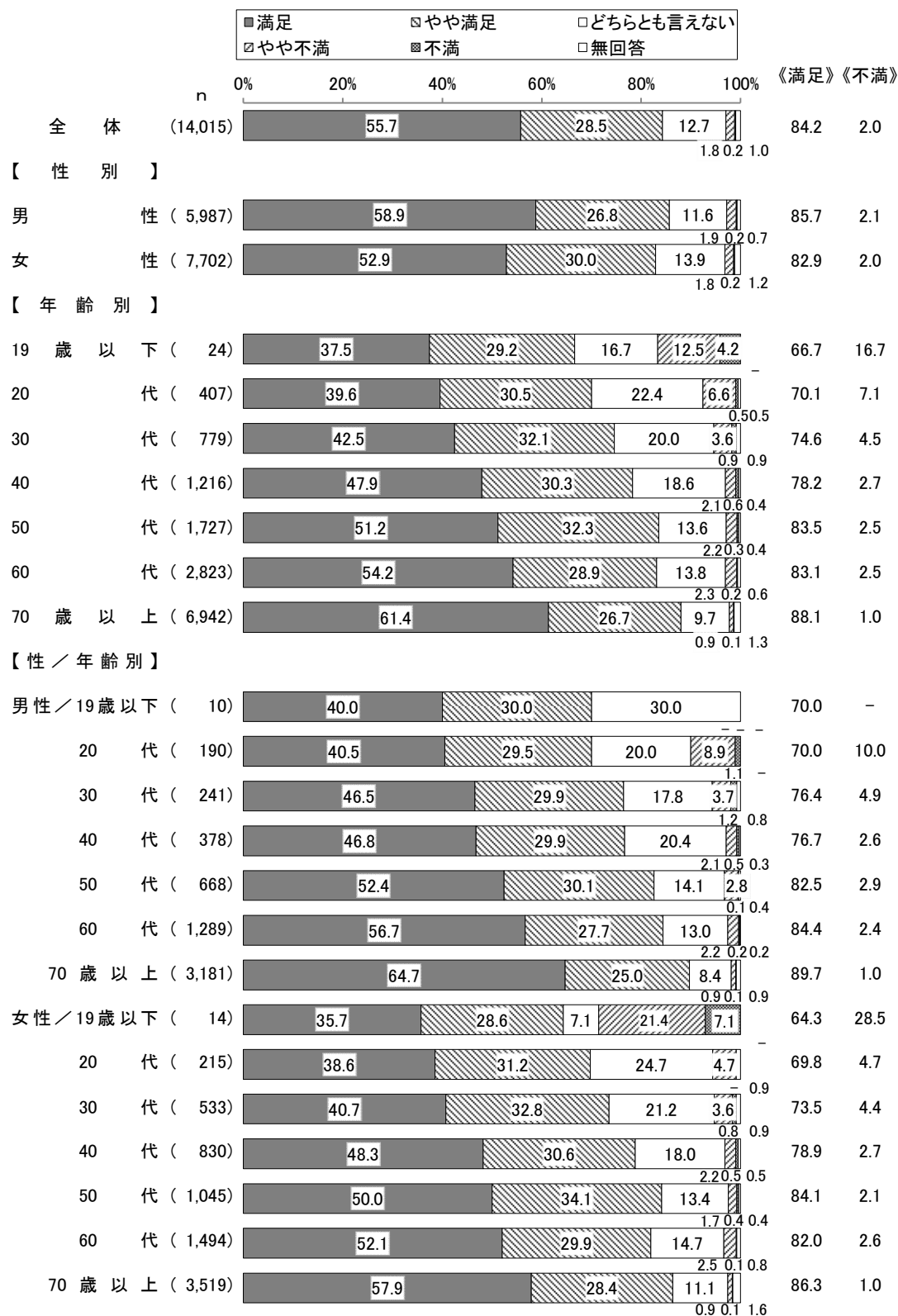
⑥ 飲み水としての水質の満足度 (水の飲み方別) <図表 2-2-8>



<特徴>

○水の飲み方別では、《満足》は、水をそのまま飲む人 (84.2%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、水道水は飲まず、ボトルウォーターを飲む人 (12.6%) で最も高くなっている。

⑥－１ 「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(属性別)〈図表２－２－９〉



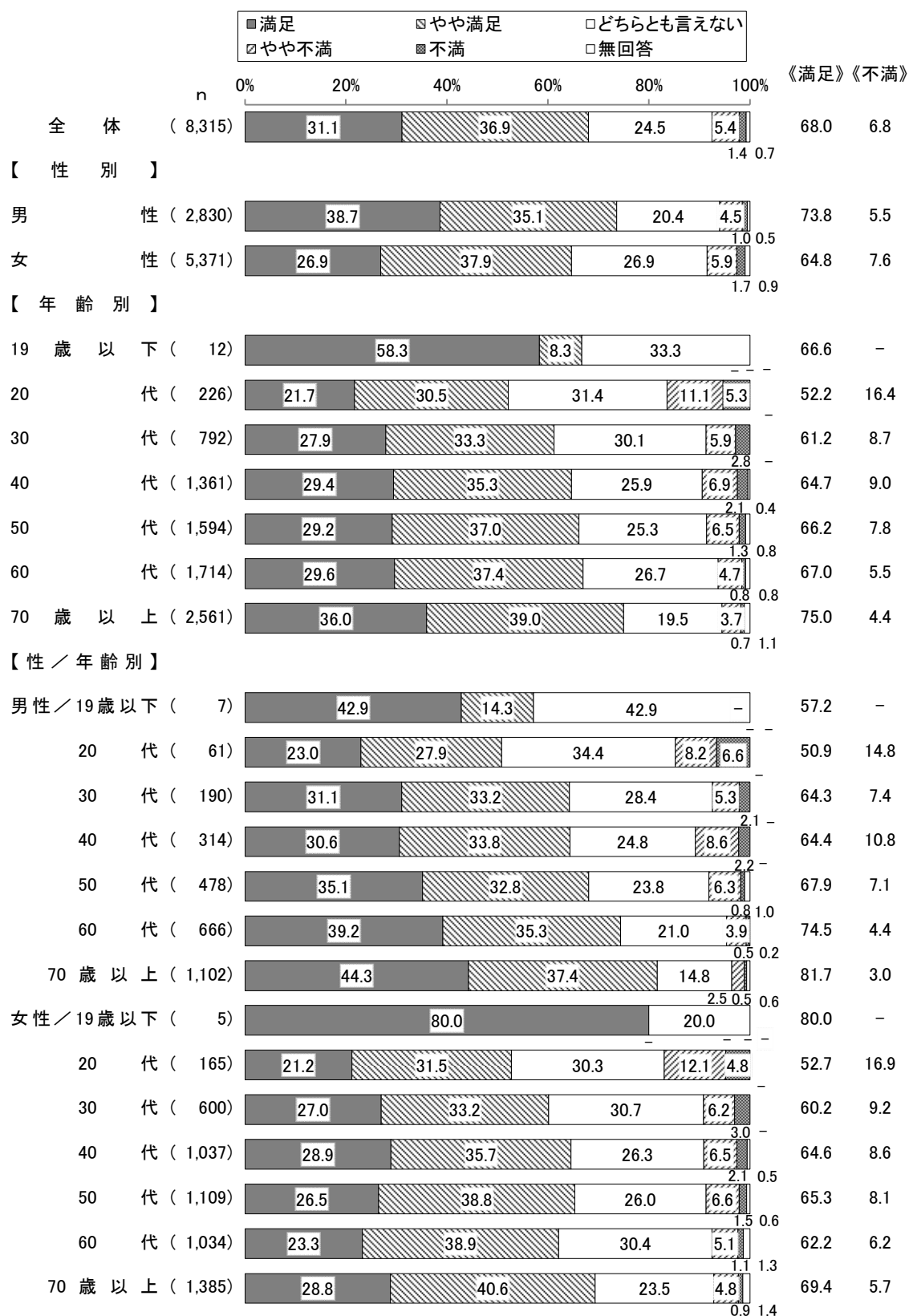
<特徴>

○性別では、《満足》は、特に違いはないが、「満足」では、男性（58.9%）の方が女性（52.9%）より6.0ポイント高くなっている。

○年齢別では、《満足》は、おおむね年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向があり、70歳以上（88.1%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《満足》は、男性の70歳以上（89.7%）で最も高くなっている。

⑥ー２ 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(属性別)〈図表２－２－１０〉



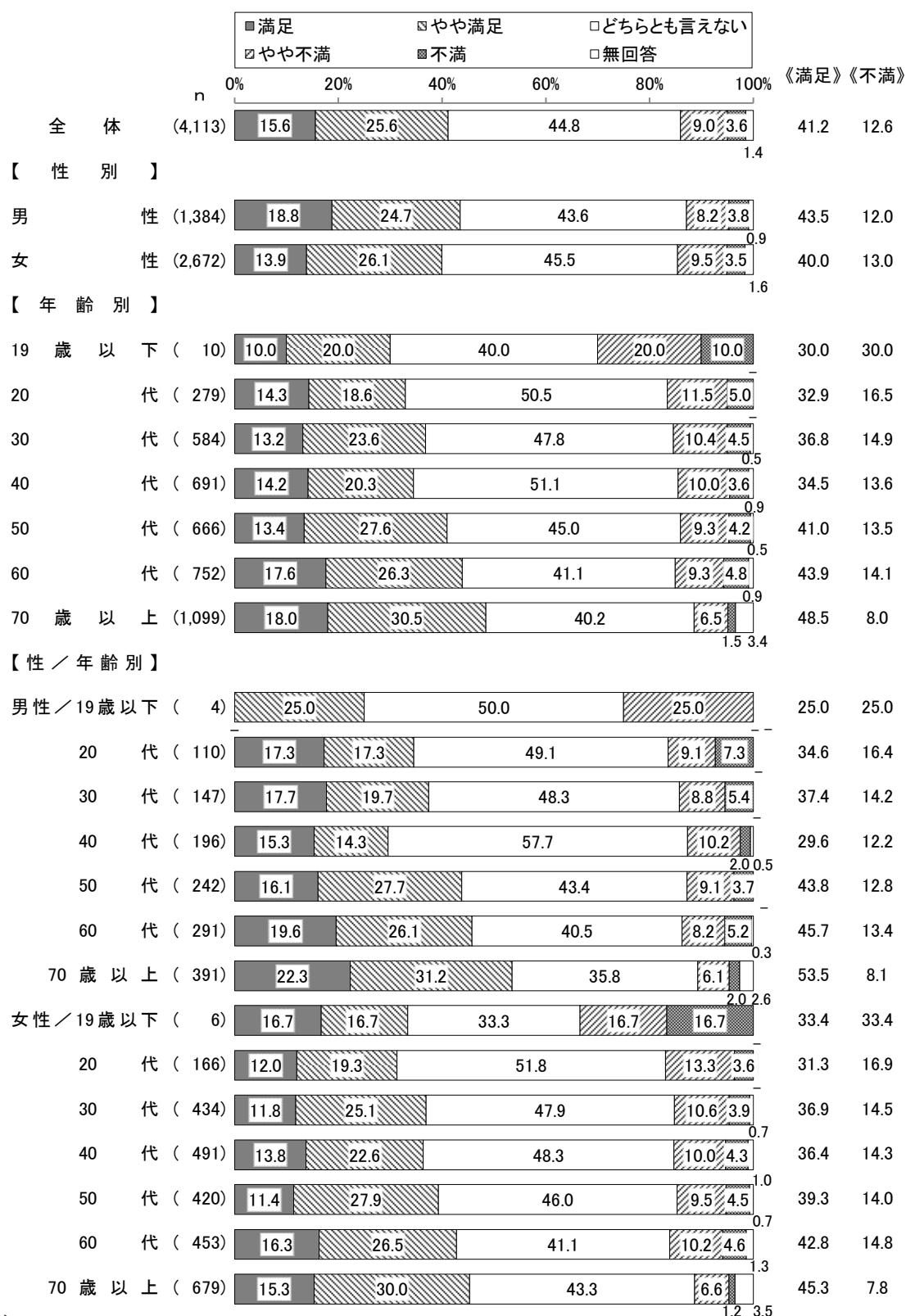
<特徴>

○性別では、《満足》は、男性（73.8%）の方が女性（64.8%）より9.0ポイント高くなっている。

○年齢別では、《満足》は、標本数が少ない19歳以下を除き、年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（75.0%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《満足》は、男性の70歳以上（81.7%）で最も高くなっている。

⑥ー3 「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（属性別）〈図表2-2-11〉



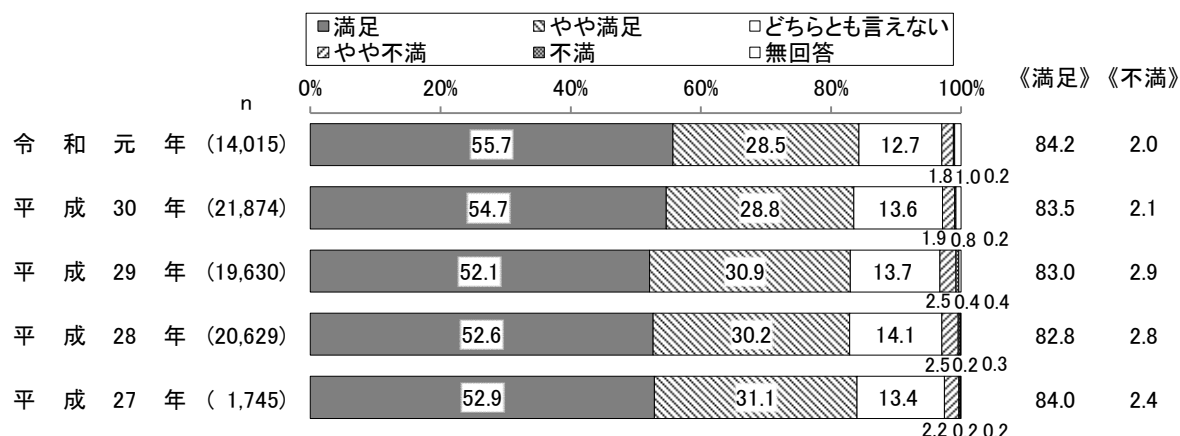
＜特徴＞

○性別では、《満足》は、男性（43.5%）の方が女性（40.0%）より3.5ポイント高くなっている。

○年齢別では、《満足》は、20代（32.9%）から年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（48.5%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《満足》は、男性の70歳以上（53.5%）で5割台半ばと最も高くなっている。

⑥－４ 「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表２－２－１２〉

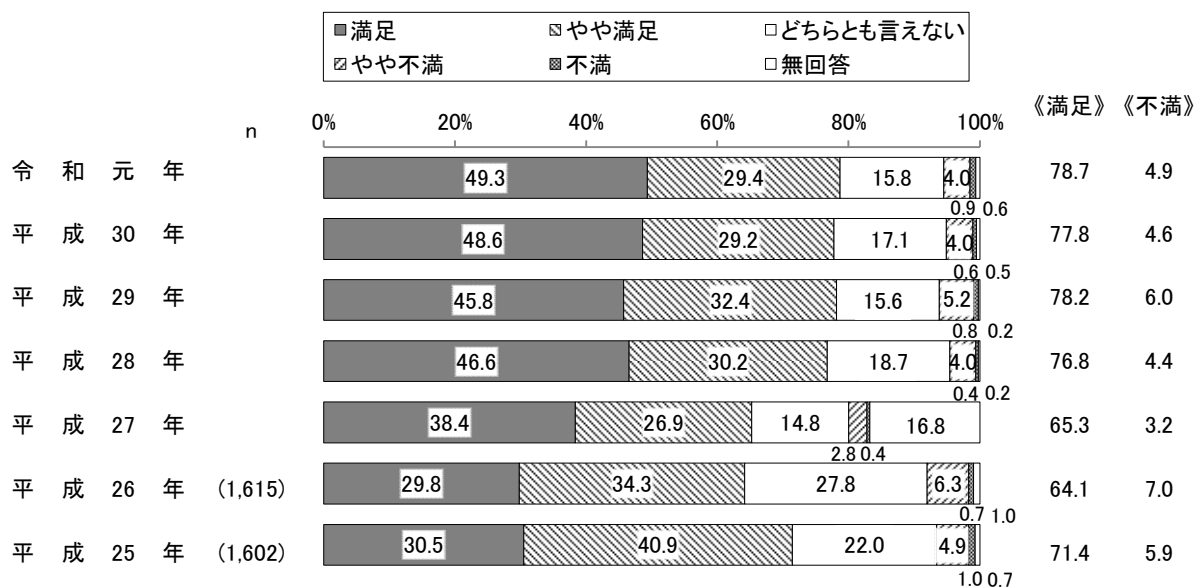


＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割台半ば近くで推移し、「どちらとも言えない」が1割台半ば近くで推移している。

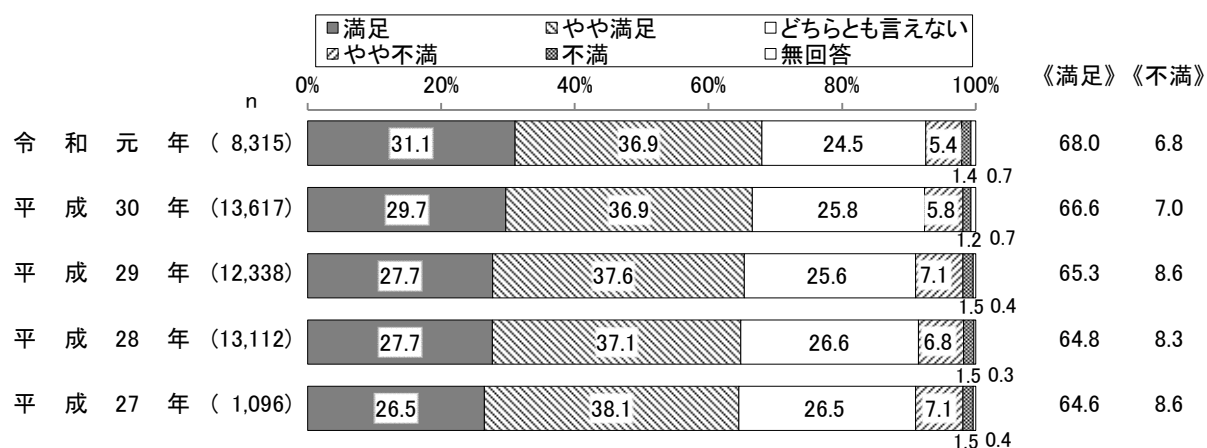
参考 「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表２－２－１３〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、「満足」が49.3%で最も高く、「やや満足」(29.4%)と合わせた《満足》は78.7%となっている。「どちらとも言えない」は15.8%となっている。

⑥ー５ 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表２－２－１４〉

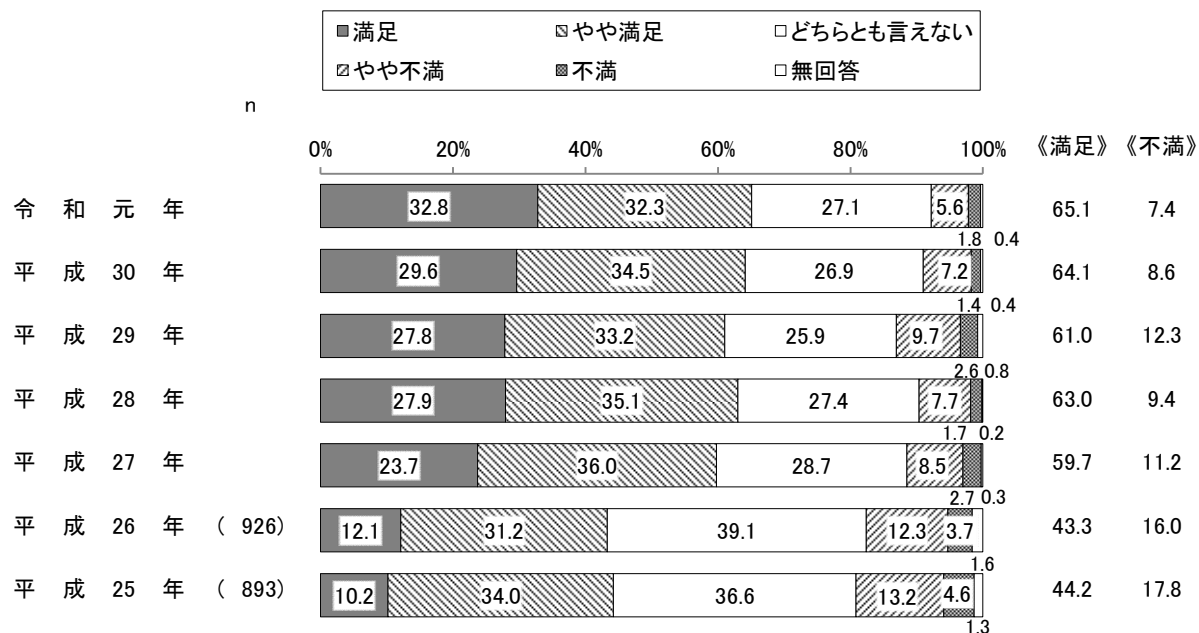


＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度と令和元年度の比較では、《満足》が平成27年度（64.6％）に比べて3.4ポイント増加している。

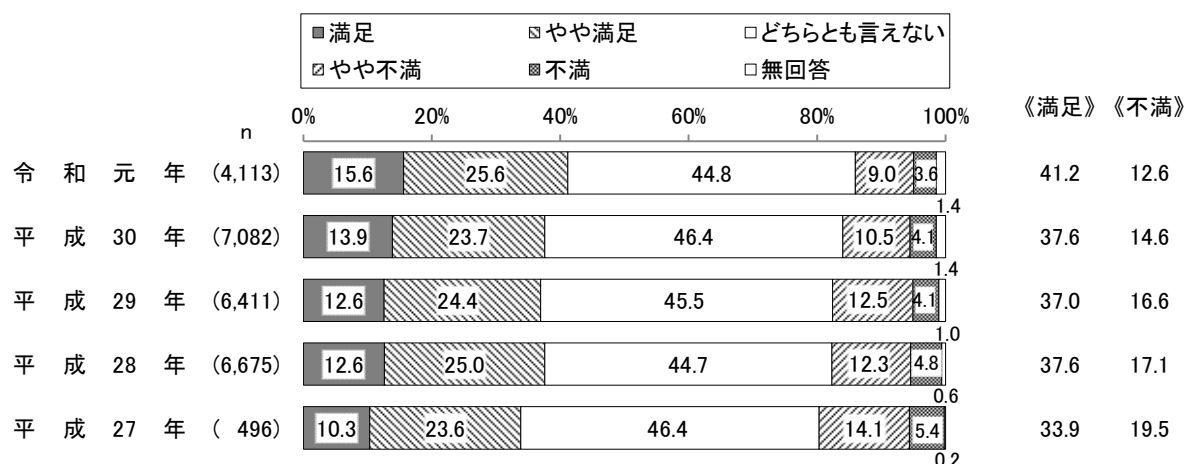
参考 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表２－２－１５〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、「満足」が32.8％で最も高く、「やや満足」（32.3％）と合わせた《満足》は65.1％となっている。「どちらとも言えない」は27.1％となっている。

⑥ー6 「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（時系列）〈図表2-2-16〉



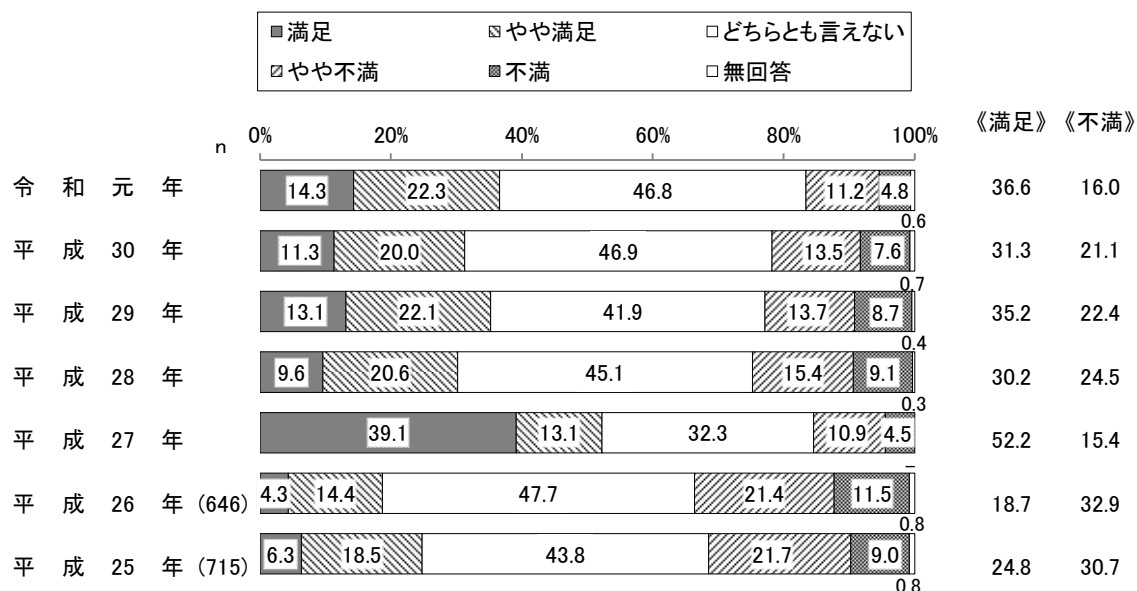
<特徴>

○前年度調査との比較では、《満足》は、3.6ポイント増加している。

平成27年度と令和元年度の比較では、《満足》は、令和元年度（41.2%）は平成27年度（33.9%）から7.3ポイント増加し、《不満》は、令和元年度（12.6%）は平成27年度（19.5%）から6.9ポイント減少している。

参考

「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（時系列）〈図表2-2-17〉

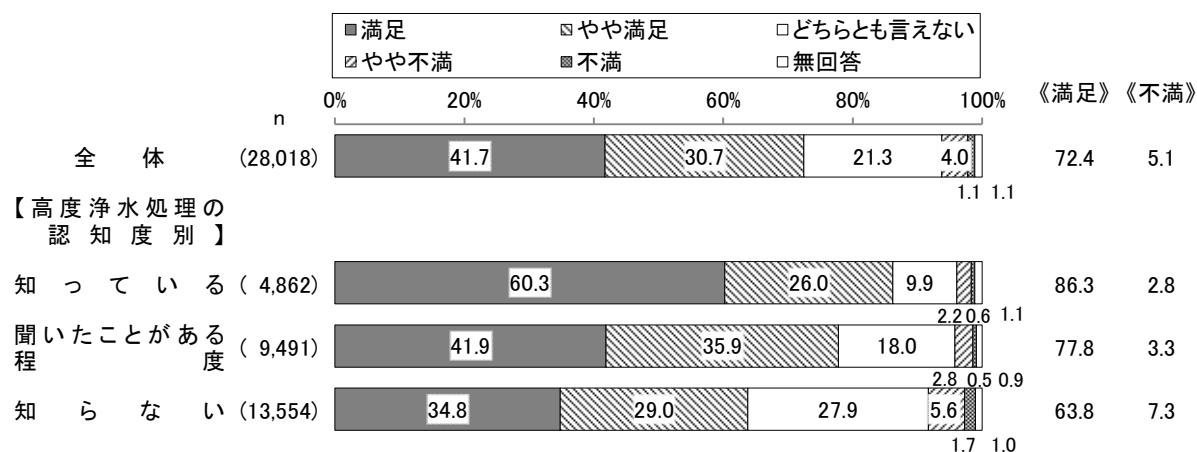


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、「どちらとも言えない」が46.8%で最も高くなっている。次いで「やや満足」（22.3%）となっており、「満足」（14.3%）を合わせた《満足》は36.6%となっている。

[詳細分析] (分析の軸はA票とE票の設問)

⑦ 飲み水としての水質の満足度 (高度浄水処理の認知度別) (図表 2-2-18)



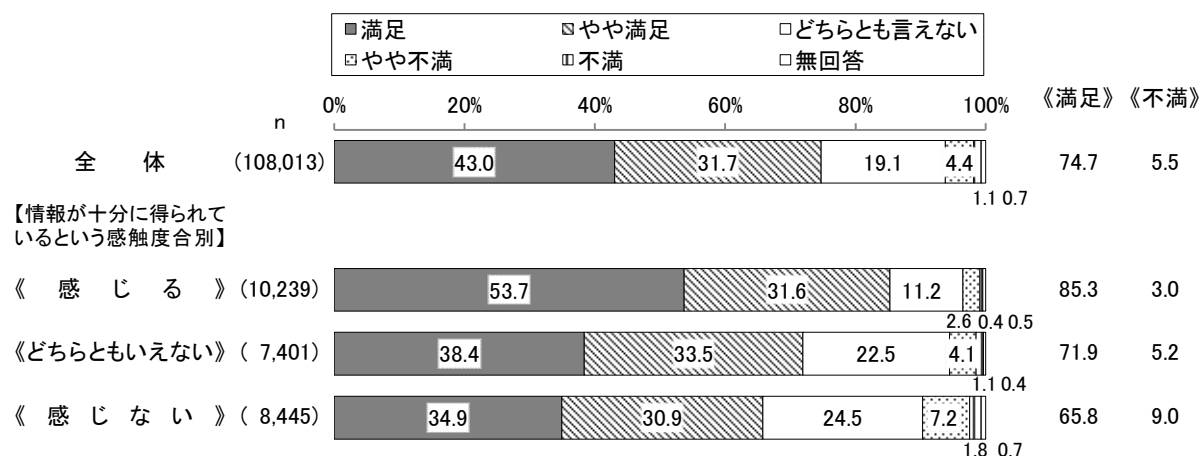
<特徴>

○高度浄水処理の認知度別では、《満足》は、高度浄水処理を知っている人 (86.3%) で最も高くなっている。

[詳細分析] (分析の軸はB票の設問)

⑧ 飲み水としての水質の満足度 (情報が十分に得られているという感触度合別)

(図表 2-2-19)

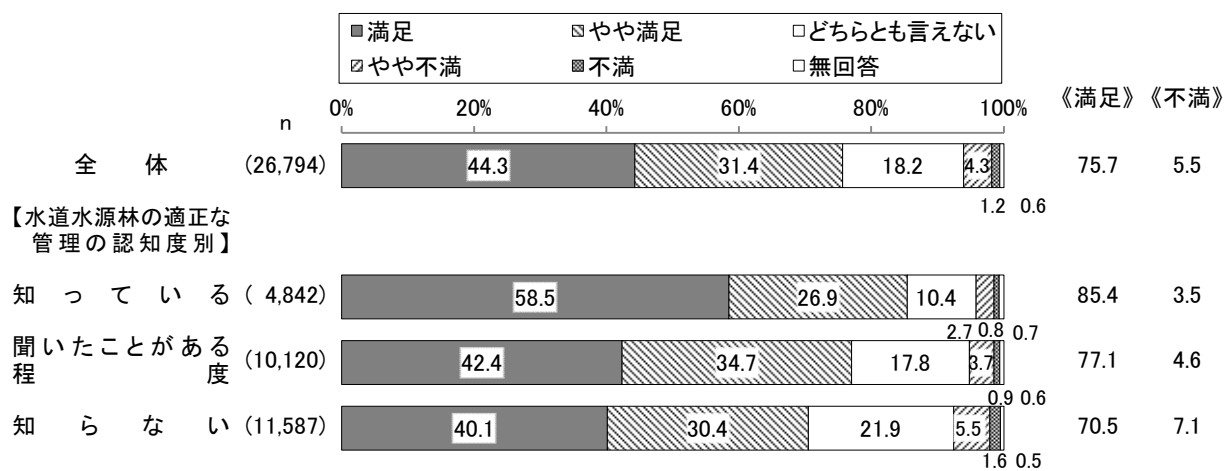


<特徴>

○情報が十分に得られているという感触度合別では、《満足》は、感触を感じる人 (85.3%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、感じない人 (9.0%) で最も高くなっている。

[詳細分析] (分析の軸はC票とF票の設問)

⑨ 飲み水としての水質の満足度 (水道水源林の適正な管理の認知度別) <図表2-2-20>



<特徴>

○水道水源林の適正な管理の認知度別では、《満足》は、適正な管理を知っている人 (85.4%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、知らない人 (7.1%) で最も高くなっている。

(2) 飲み水としての水道水を不満と思う要因

問 〈前問で「4」または「5」と回答した方のみにお尋ねします。〉

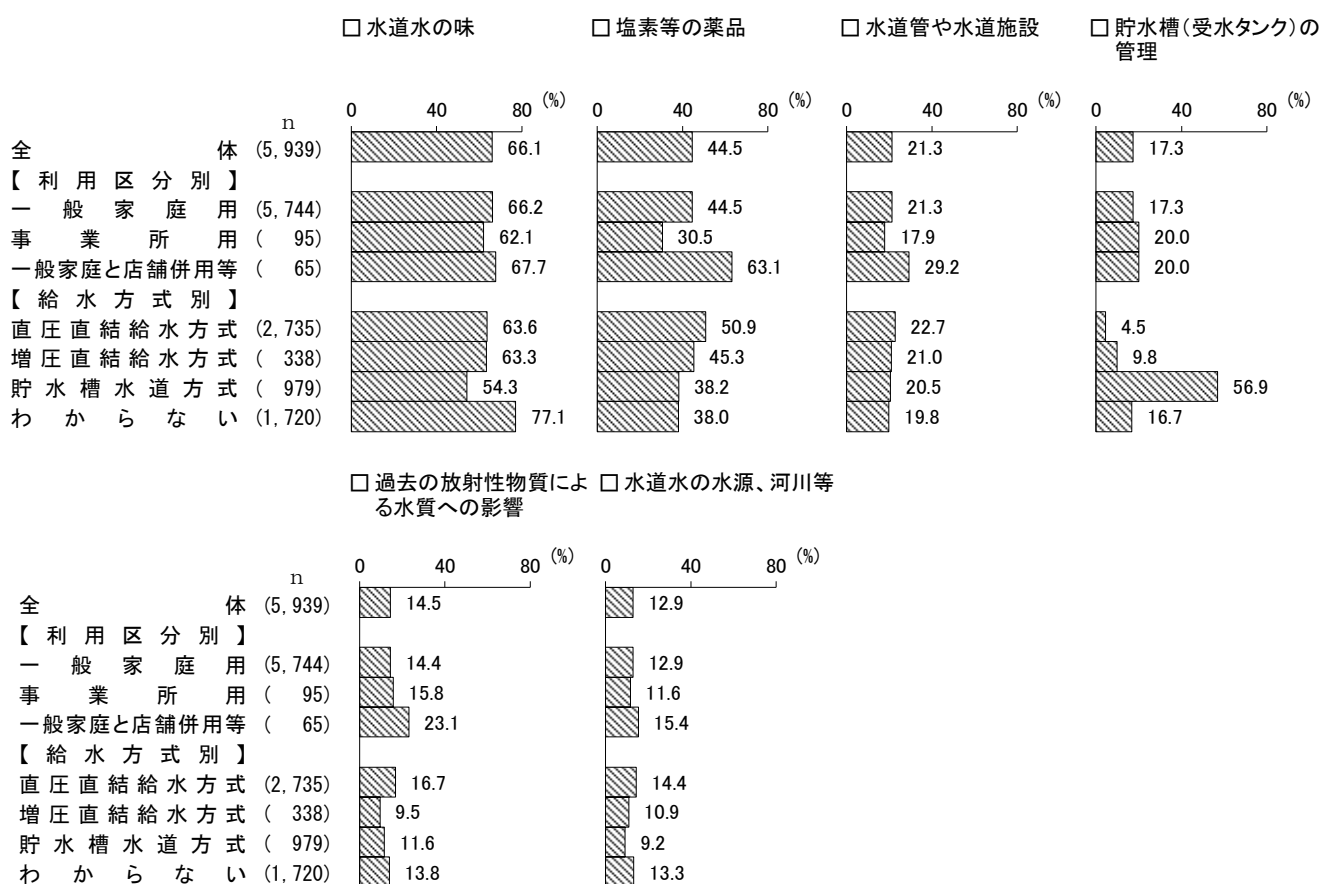
飲み水としての水道水を不満と思う要因は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1) 水道水の水源、河川等 | 2) 塩素等の薬品 |
| 3) 水道管や水道施設 | 4) 貯水槽(受水タンク)の管理 |
| 5) 過去の放射性物質による水質への影響 | 6) 水道水の味 |

〔A：問8、B：問7、C：問7、D：問8、E：問8、F：問7、G：問7、H：問8〕

〔調査結果〕

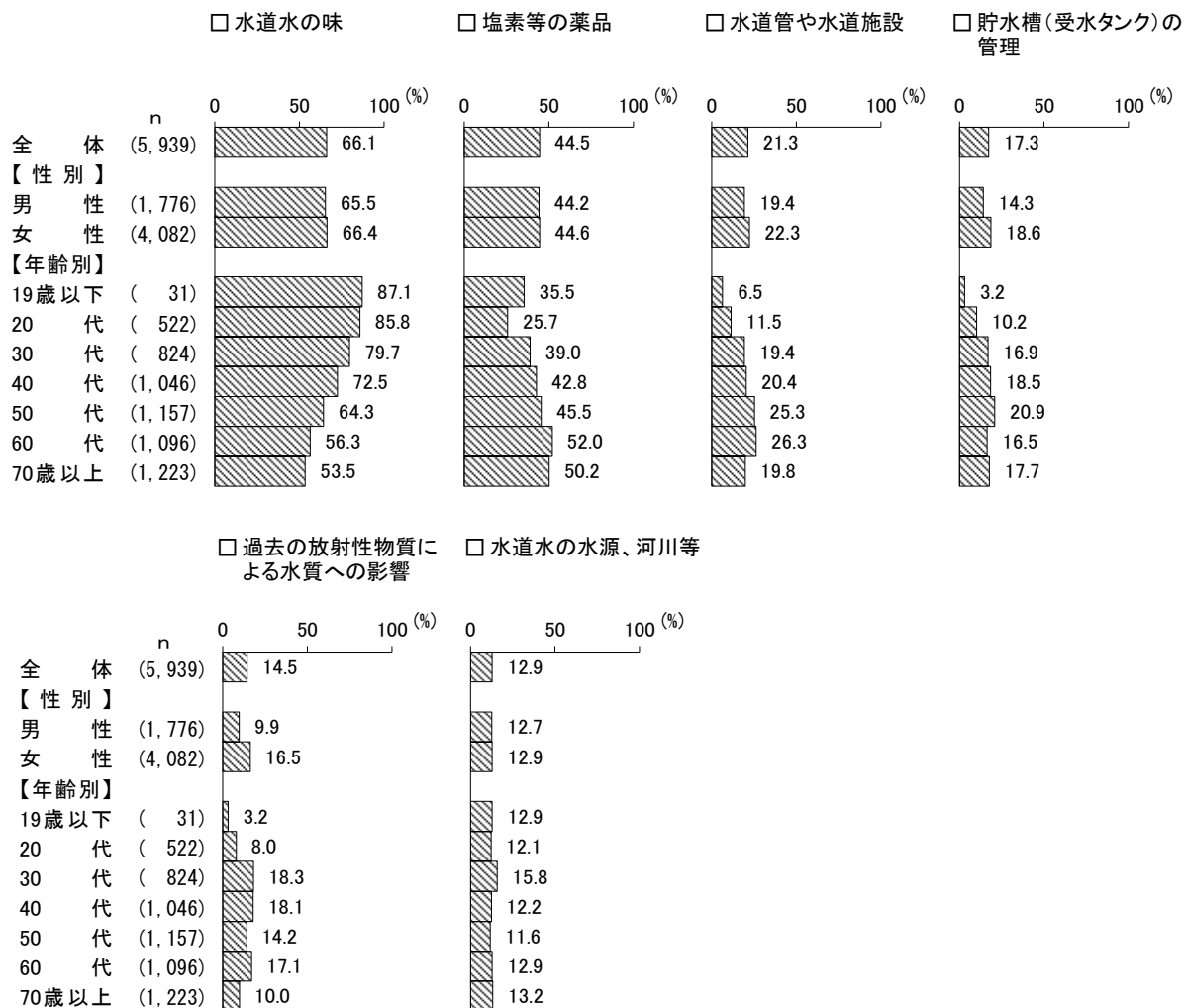
① 飲み水としての水道水を不満と思う要因(利用区分別、給水方式別)〈図表2-2-2-1〉



＜特徴＞

- 全体でみると、「水道水の味」が66.1%で最も高くなっている。以下「塩素等の薬品」(44.5%)、「水道管や水道施設」(21.3%)、「貯水槽(受水タンク)の管理」(17.3%)、「過去の放射性物質による水質への影響」(14.5%)、「水道水の水源、河川等」(12.9%)の順となっている。
- 利用区分別では、すべての要因で“一般家庭と店舗併用等”が最も高くなっており、特に「水道水の味」(67.7%)と「塩素等の薬品」(63.1%)で高くなっている。
- 給水方式別では、「水道水の味」は“わからない”(77.1%)で、「塩素等の薬品」は“直圧直結給水方式”(50.9%)で、「貯水槽(受水タンク)の管理」は“貯水槽水道方式”(56.9%)でそれぞれ最も高くなっている。

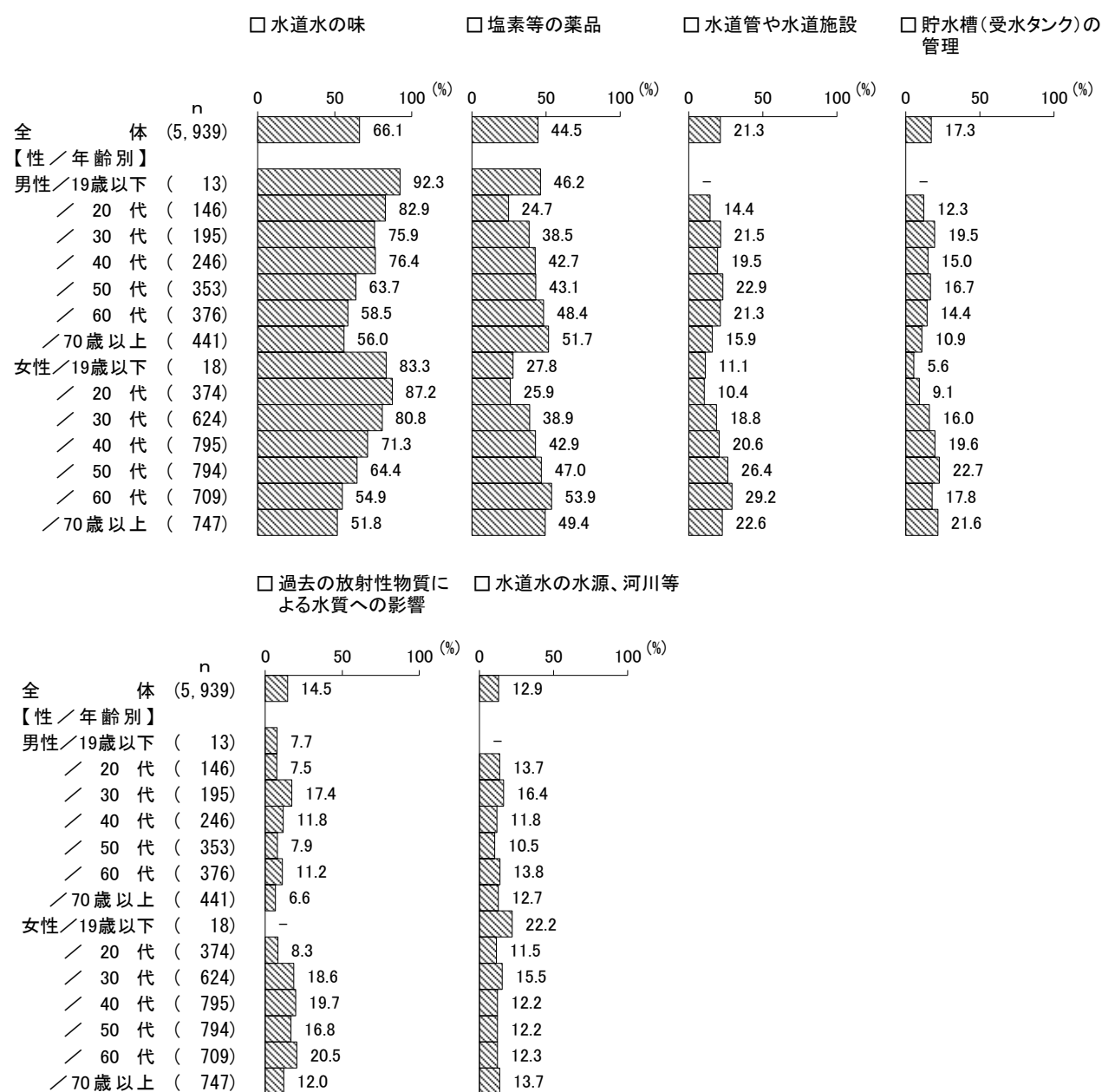
② 飲み水としての水道水を不満と思う要因（性別、年齢別）〈図表 2－2－2 2〉



<特徴>

- 性別では、「過去の放射性物質による水質への影響」で違いが最も大きく、女性（16.5%）の方が男性（9.9%）より6.6ポイント高く、「貯水槽(受水タンク)の管理」でも女性（18.6%）の方が男性（14.3%）より4.3ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「水道水の味」は、70歳以上（53.5%）で最も低く、年齢が下がるにつれて割合は高くなり19歳以下（87.1%）で最も高くなっている。また、「塩素等の薬品」は、20代（25.7%）で最も低く、おおむね年齢が上がるにつれて割合は高くなり、60代（52.0%）で最も高くなっている。

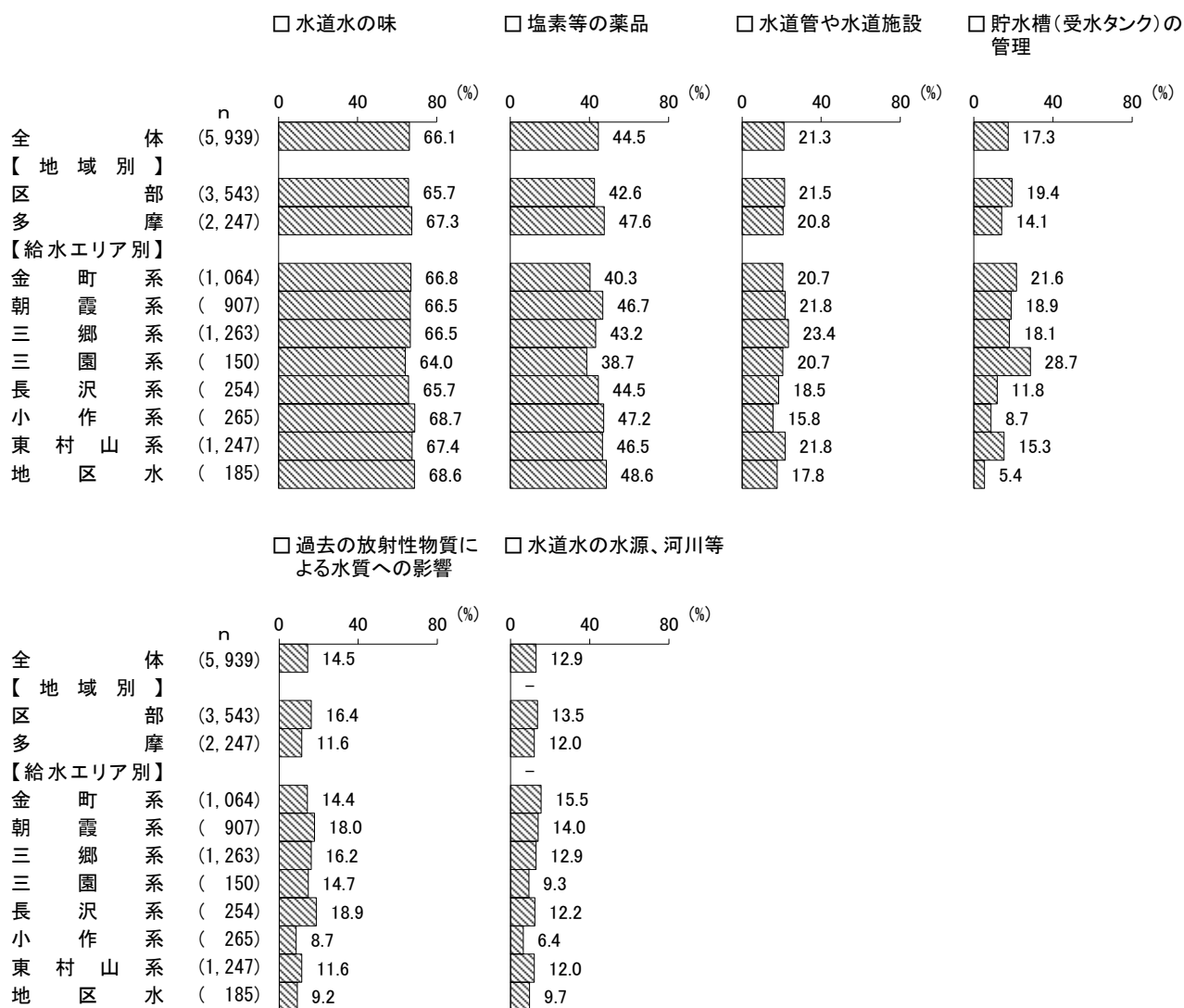
③ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（性／年齢別）〈図表２－２－２３〉



<特徴>

○性／年齢別では、「水道水の味」は、男女ともに70歳以上で最も低く、年齢が下がるにつれて割合は高くなっている。また、「塩素等の薬品」は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれて割合は高くなり、女性の60代（53.9%）で最も高くなっている。

④ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（地域別、給水エリア別）〈図表 2－2－2 4〉

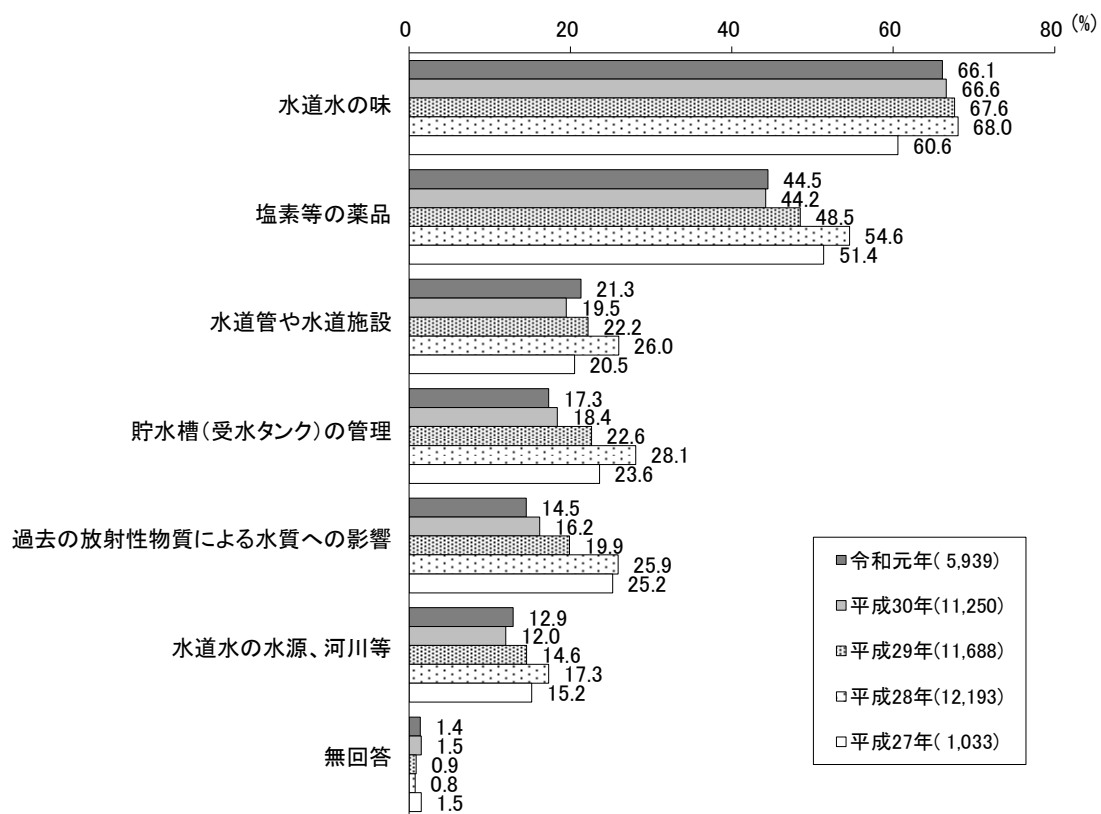


<特徴>

○地域別では、「塩素等の薬品」は多摩（47.6％）の方が区部（42.6％）より5.0ポイント高くなっている。逆に、「貯水槽（受水タンク）の管理」（区部19.4％：多摩14.1％）と「過去の放射性物質による水質への影響」（区部16.4％：多摩11.6％）では区部の方が高くなっている。

○給水エリア別では、「塩素等の薬品」は、地区水（48.6％）で、「貯水槽（受水タンク）の管理」は三園系（28.7％）と金町系（21.6％）でそれぞれ全体平均より3ポイント以上高くなっている。

⑤ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（時系列）〈図表２－２－２５〉



<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向では、平成27年度から平成28年度ではすべての項目で割合が増加したが、平成28年度から令和元年度にかけては多くの項目で割合が減少傾向にある。

(3) 調理に使用する水としての水質の満足度

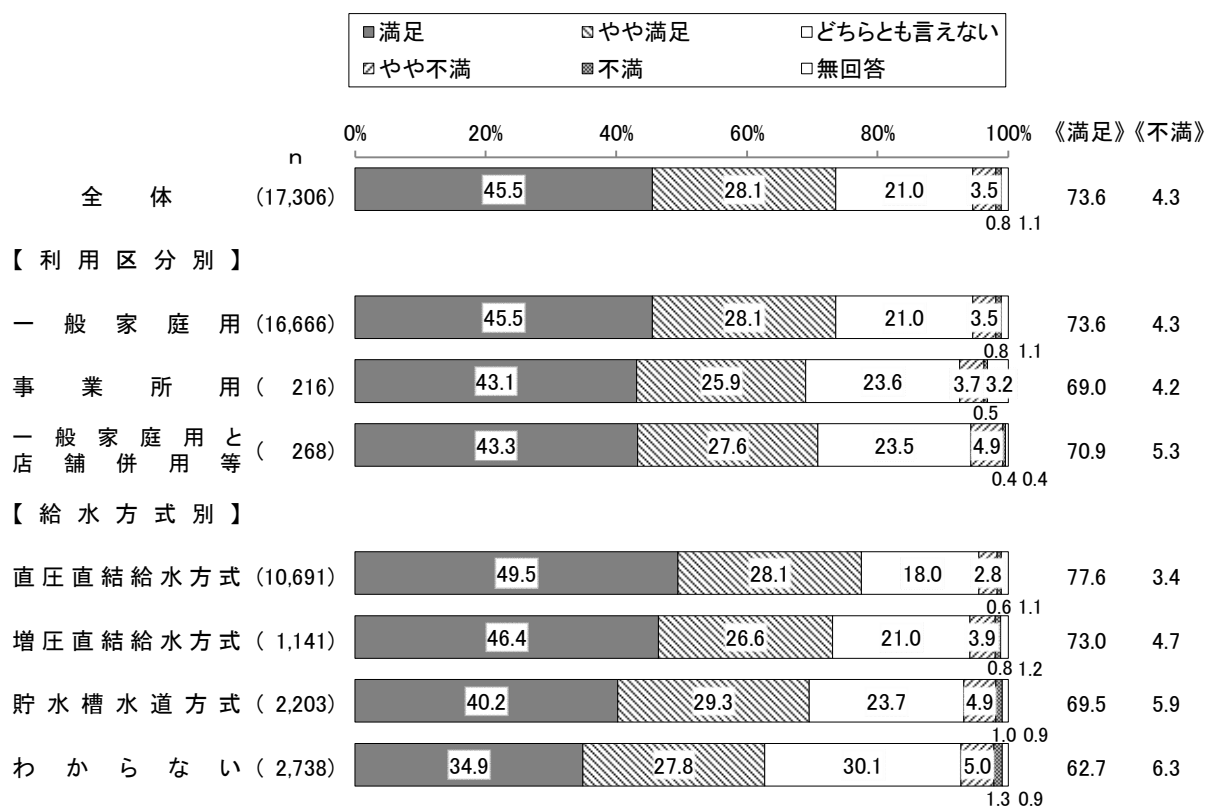
問 東京の水道水を調理に使用する場合、水質をどのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔B：問9〕

〔調査結果〕

① 調理に使用する水としての水質の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-26〉



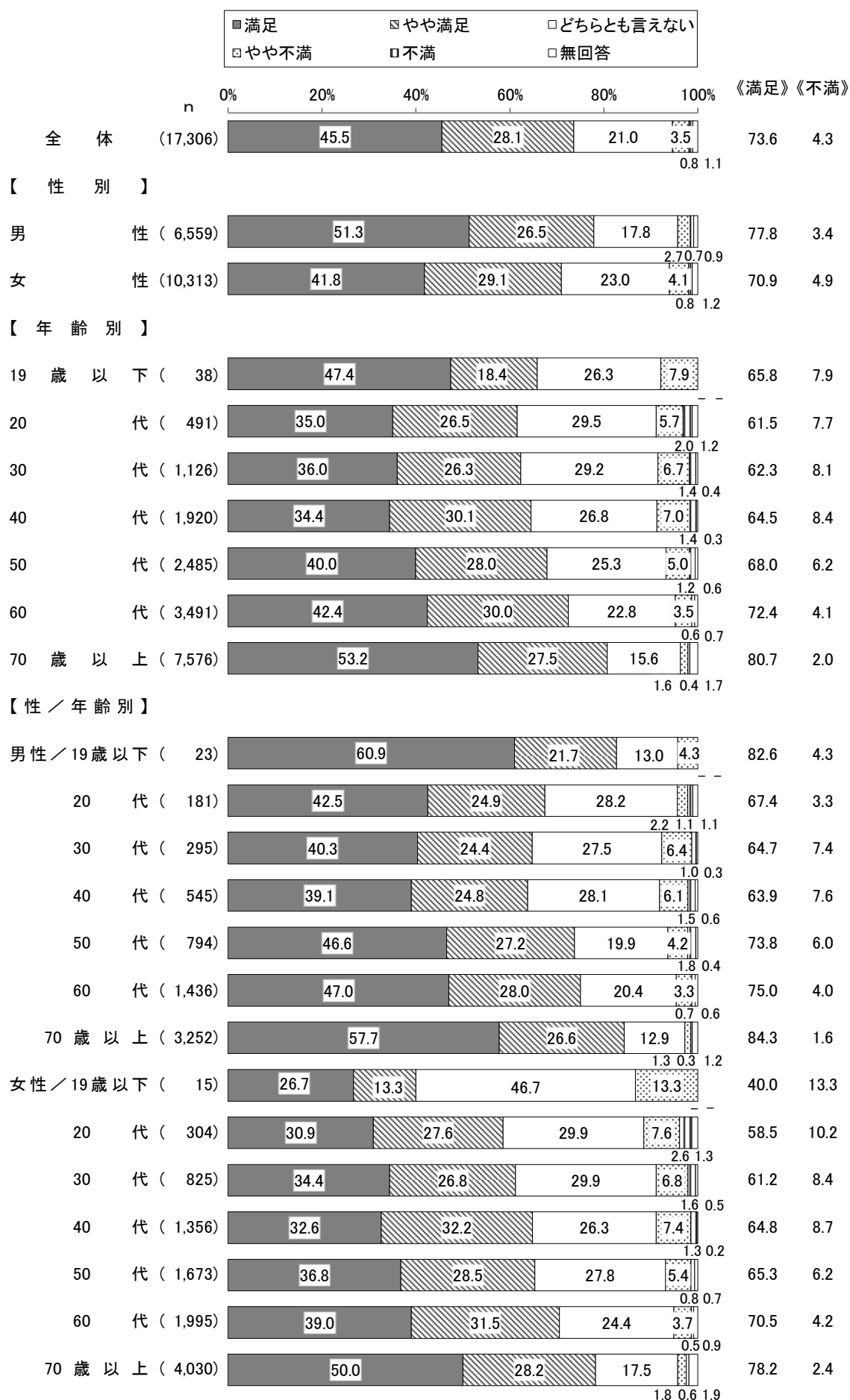
＜特徴＞

○全体でみると、「満足」が45.5%で最も高く、「やや満足」(28.1%)を合わせた《満足》は73.6%となっている。一方、《不満》は4.3%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用で73.6%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で77.6%と最も高くなっている。

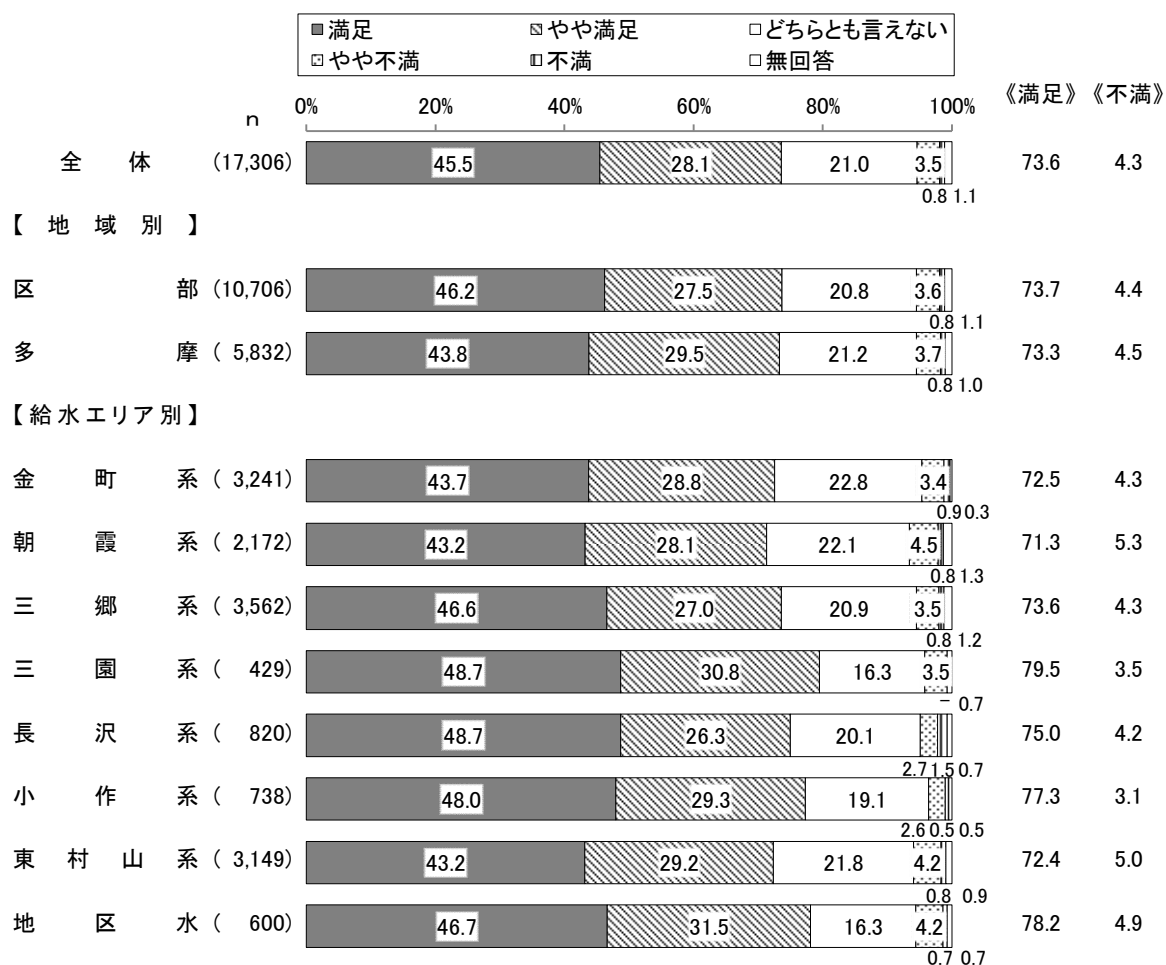
② 調理に使用する水としての水質の満足度（属性別）〈図表２－２－２７〉



<特徴>

- 性別では、「満足」は、男性（51.3%）の方が女性（41.8%）より9.5ポイント高く、《満足》でも、男性（77.8%）の方が女性（70.9%）より6.9ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、標本数の少ない19歳以下を除き、年齢が上がるにつれて高くなり、70歳以上（80.7%）で最も高い割合となっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男性の70歳以上（84.3%）で最も高くなっており、女性は年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。

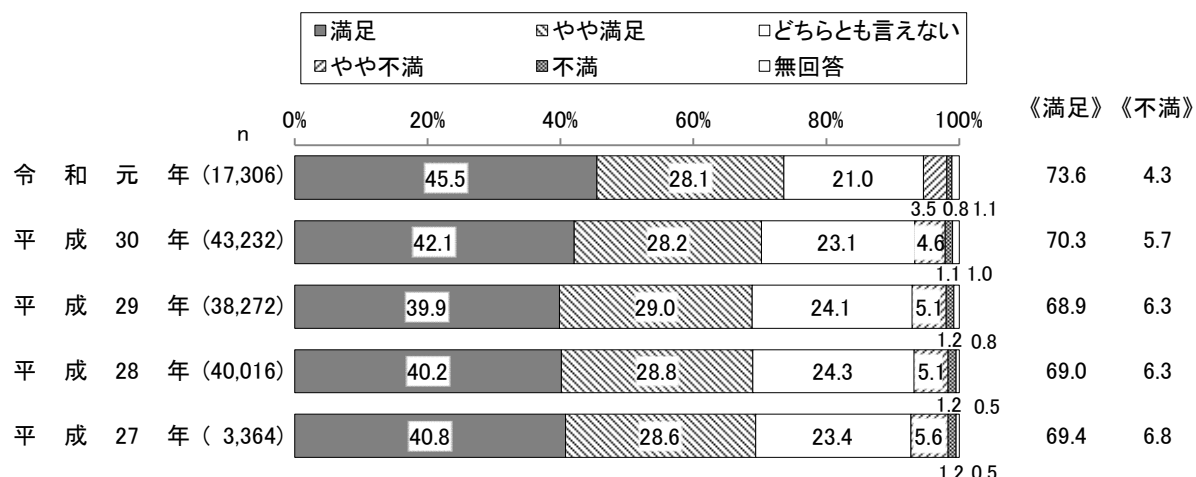
③ 調理に使用する水としての水質の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-28〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、三園系（79.5%）で最も高く、次いで地区水（78.2%）となっている。

④ 調理に使用する水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－２９〉



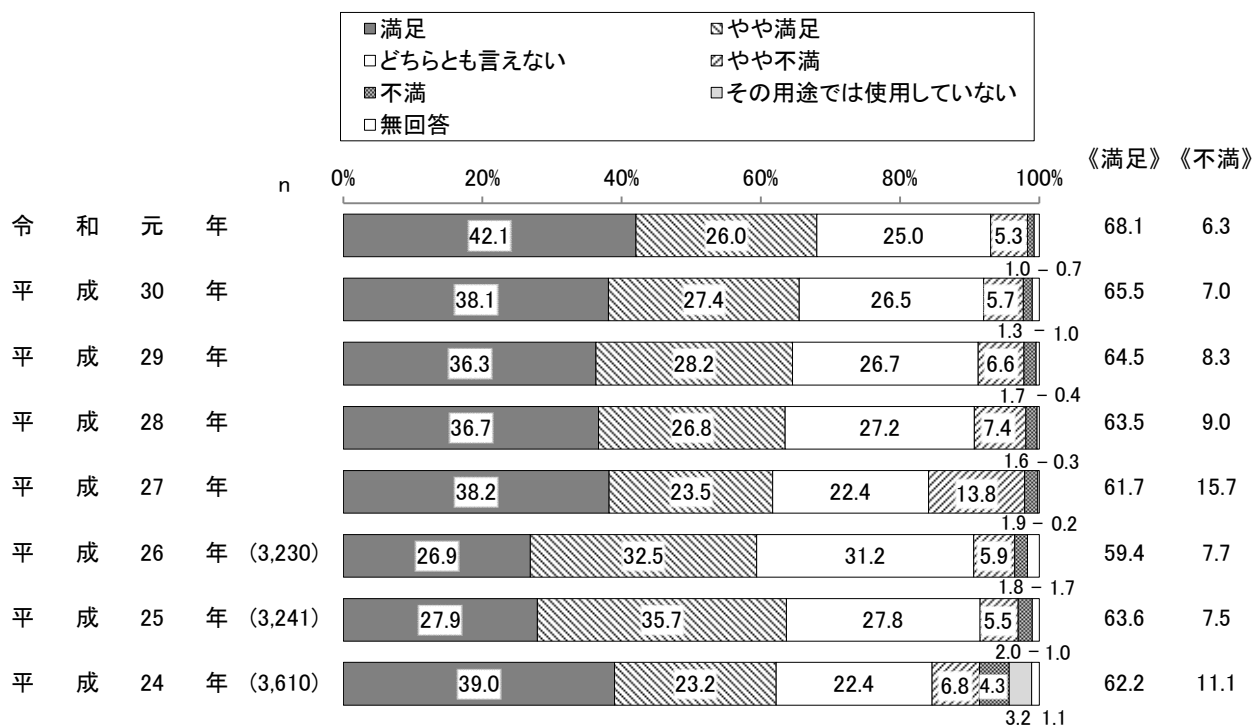
<特徴>

○前年度調査との比較では、《満足》が3.3ポイント増加している。

令和元年度は平成27年度比較して、《満足》が4.2ポイント増加している。

参考

調理に使用する水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－３０〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、「満足」が42.1%で最も高く、「やや満足」（26.0%）を合わせた《満足》は68.1%となっている。「どちらとも言えない」は25.0%となっている。

(4) 洗面・風呂等としての水質の満足度

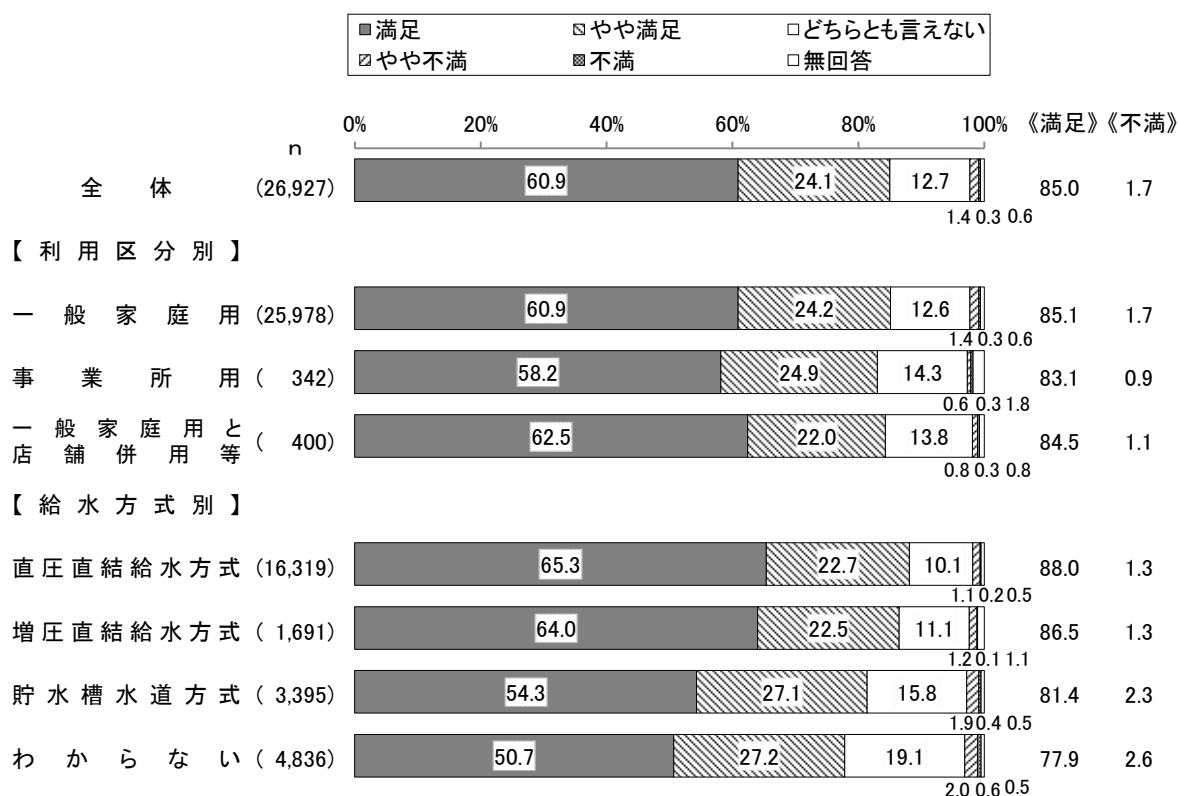
問 東京の水道水の洗面・風呂等としての水質をどのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔B：問10、F：問8〕

〔調査結果〕

① 洗面・風呂等としての水質の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-31〉



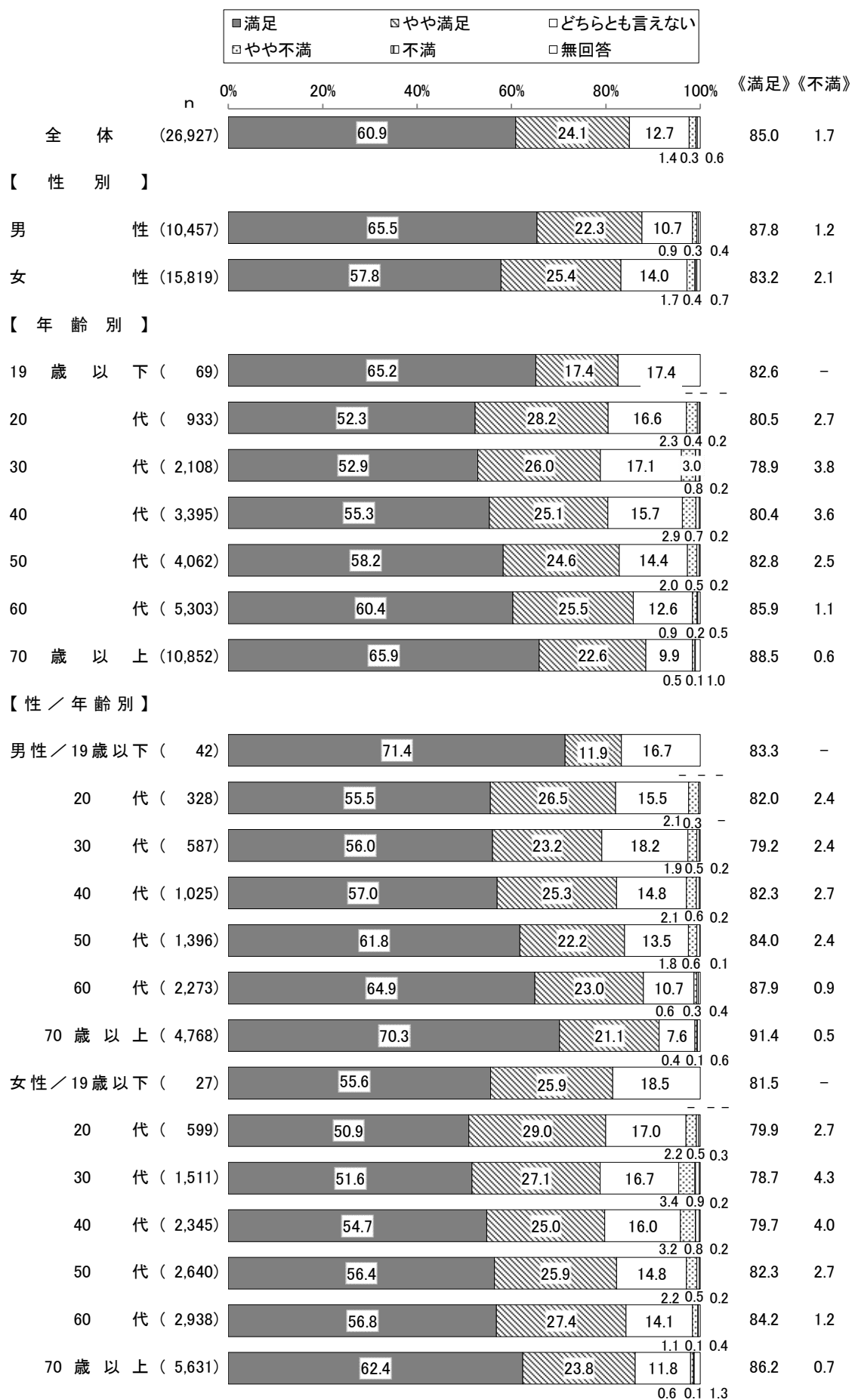
＜特徴＞

○全体でみると、「満足」が60.9%で最も高く、「やや満足」(24.1%)を合わせた《満足》は85.0%を占めており、《不満》は1.7%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用で85.1%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で88.0%と最も高くなっている。

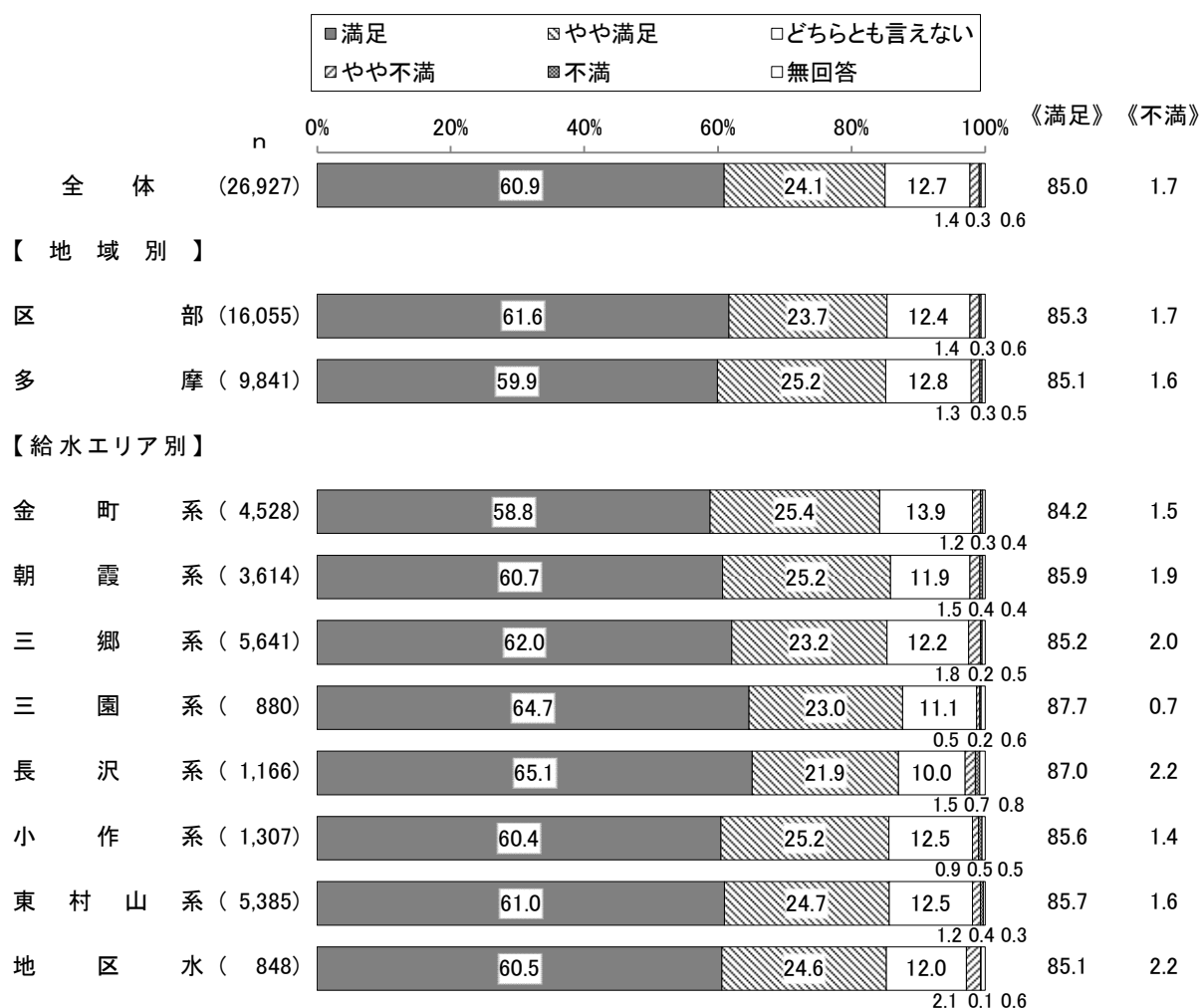
② 洗面・風呂等としての水質の満足度（属性別）〈図表２－２－３２〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（87.8%）の方が女性（83.2%）より4.6ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、30代（78.9%）で最も低く、40代からは年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（88.5%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別でも、《満足》は、男女ともに30代で低く、40代から年齢が上がるにつれ割合が高くなり、男性の70歳以上（91.4%）で最も高くなっている。

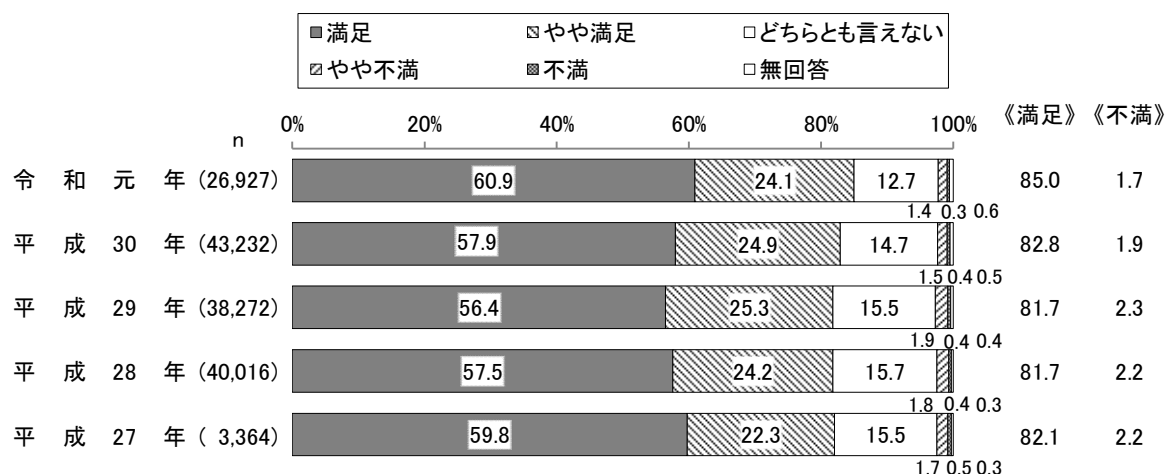
③ 洗面・風呂等としての水質の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-33〉



<特徴>

- 地域別では、《満足》は区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別でも、《満足》の割合に特に大きな違いはみられない。

④ 洗面・風呂等としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－3 4〉

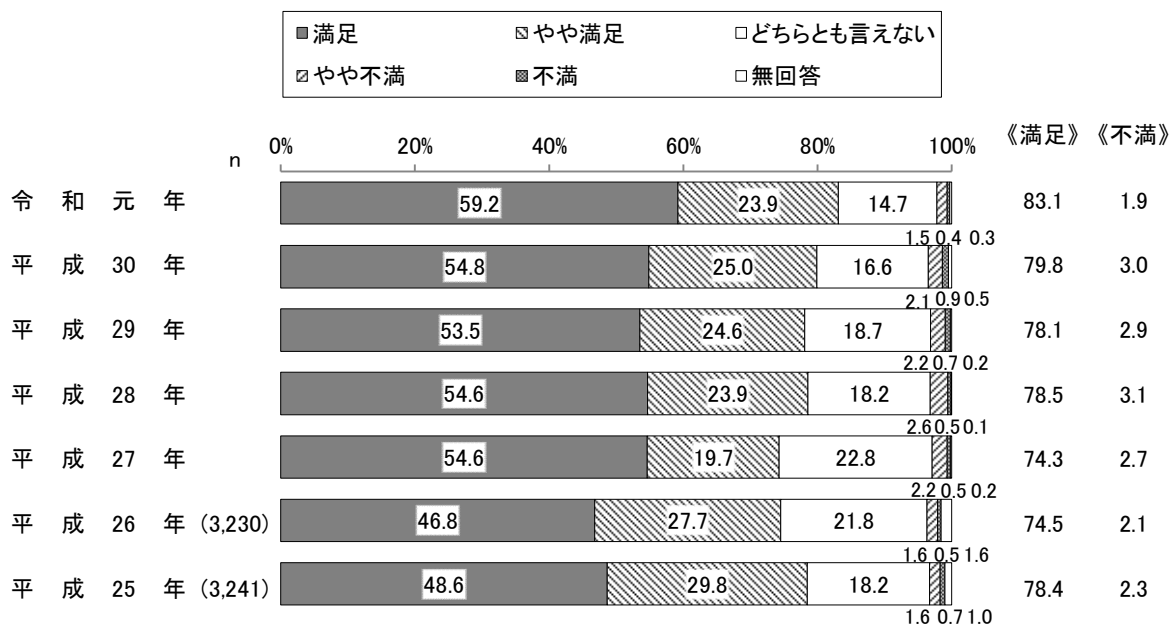


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割強から8割台半ばで推移している。

参考 洗面・風呂等としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－3 5〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、《満足》は83.1%となっている。「どちらとも言えない」は14.7%となっている。

(5) 味（おいしさ）の満足度

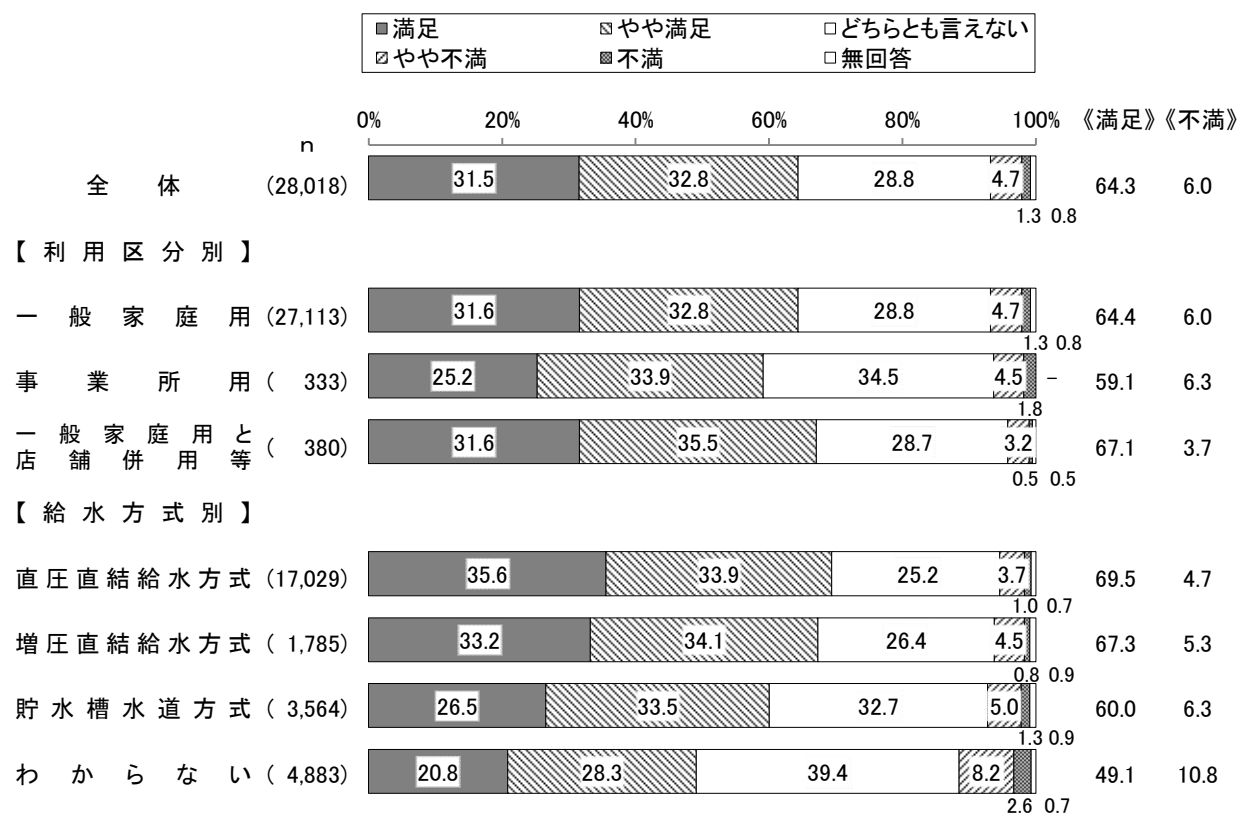
問 東京の水道水の味（おいしさ）を、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔A：問9、E：問9〕

〔調査結果〕

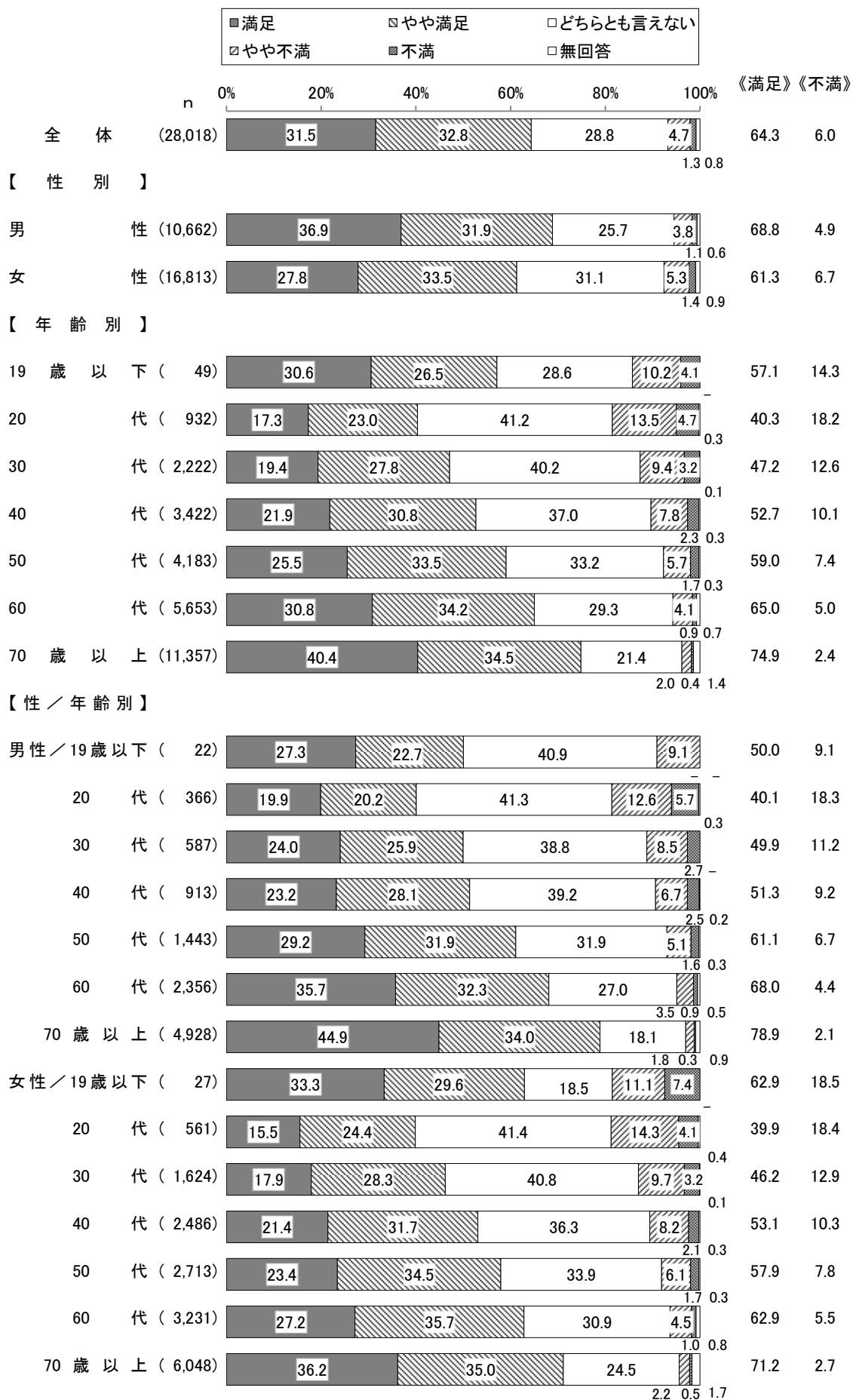
① 味（おいしさ）の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-36〉



＜特徴＞

- 全体でみると、「やや満足」が32.8%で最も高く、「満足」(31.5%)を合わせた《満足》は64.3%となっている。一方、《不満》は6.0%で、「どちらともいえない」は28.8%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で67.1%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で69.5%と最も高くなっている。

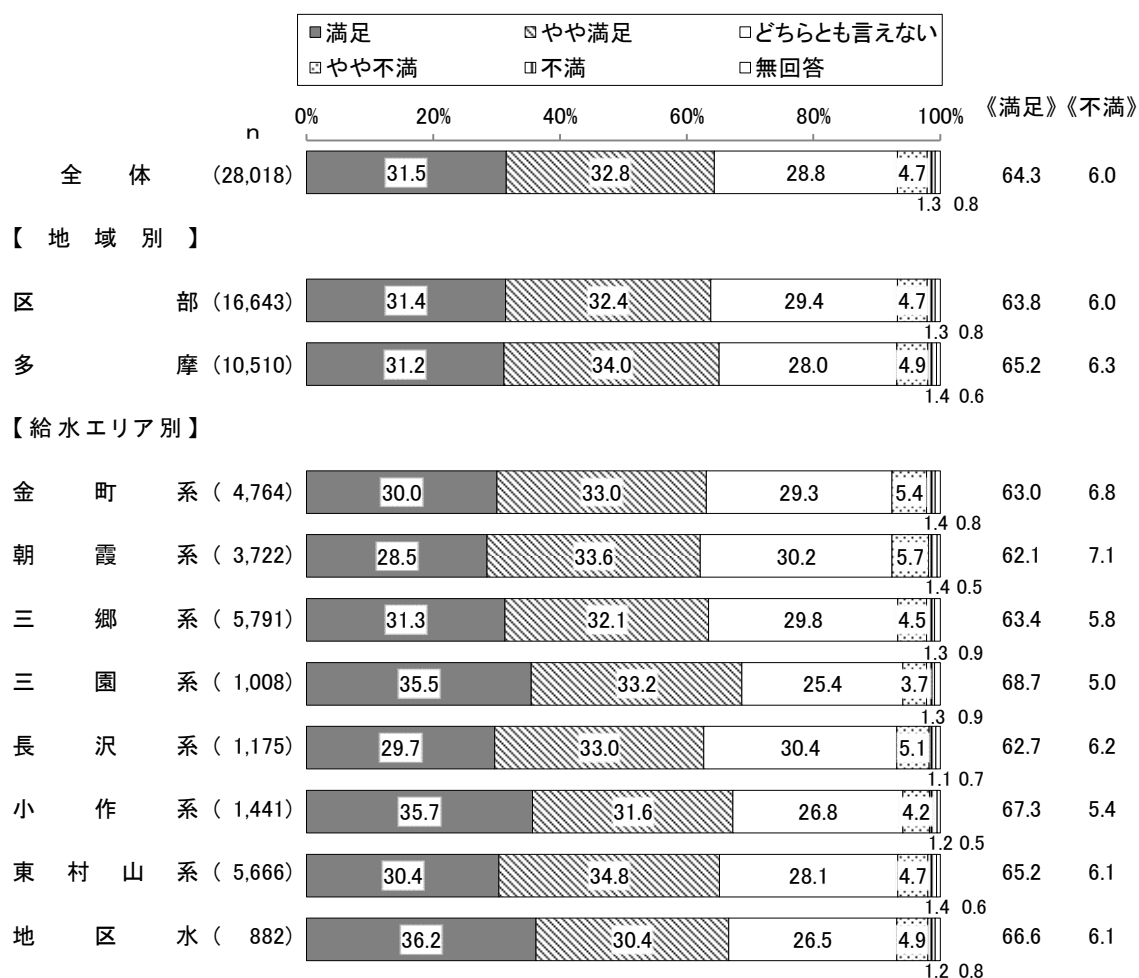
② 味（おいしさ）の満足度（属性別）〈図表 2-2-37〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（68.8%）の方が女性（61.3%）より7.5ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、標本数が少ない19歳以下を除き、20代（40.3%）が最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（74.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、標本数が少ない19歳以下を除き、男女ともに20代で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合が高くなり、男性の70歳以上（78.9%）で最も高くなっている。

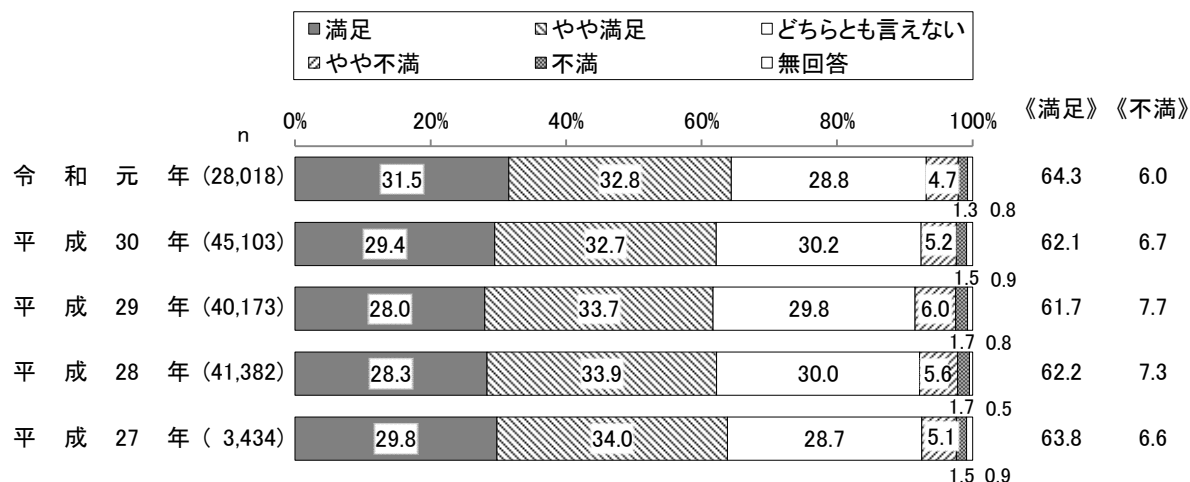
③ 味（おいしさ）の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-38〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、三園系（68.7%）で最も高く、次いで小作系（67.3%）となっている。

④ 味（おいしさ）の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－39〉

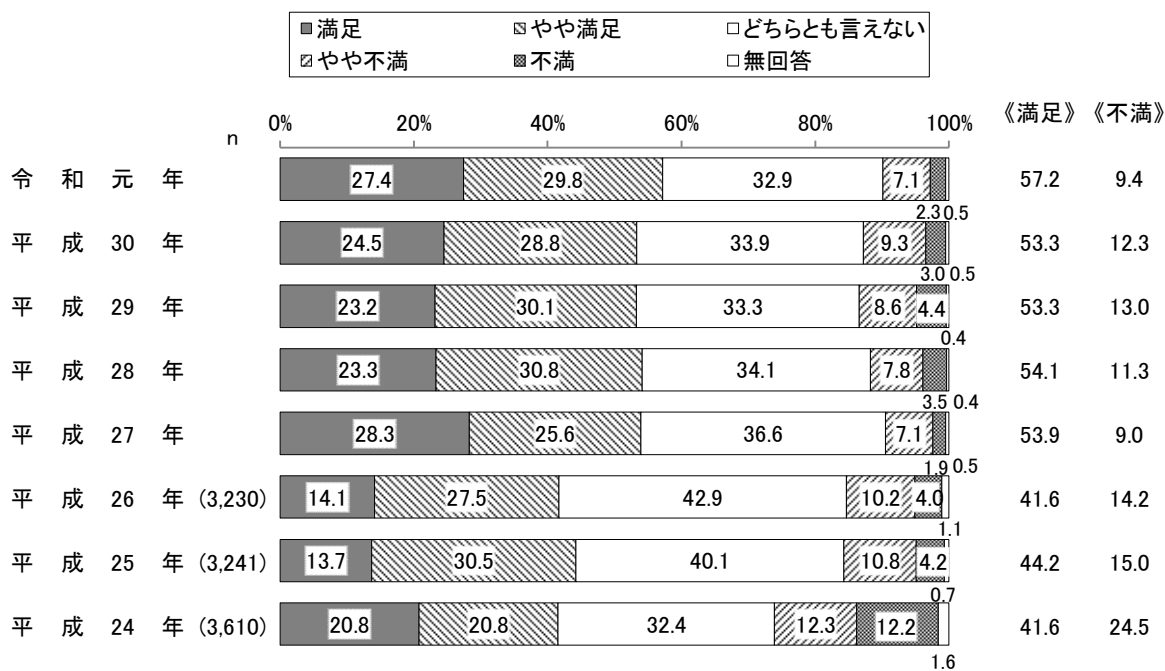


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が6割強から6割台半ばで推移している。

参考 味（おいしさ）の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－40〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、《満足》は57.2%となっている。「どちらとも言えない」は32.9%となっている。

(6) におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度

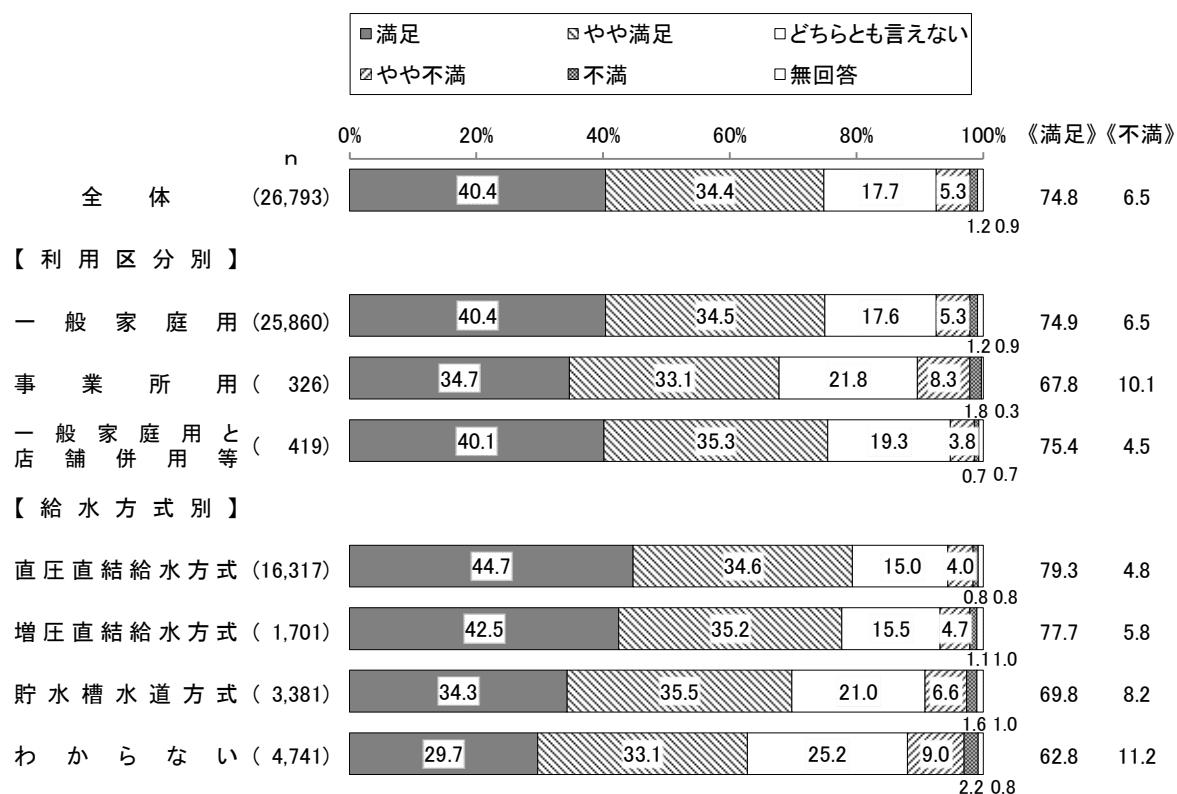
問 東京の水道水のにおい（カルキ臭・かび臭等）の少なさを、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔C：問10、G：問11〕

〔調査結果〕

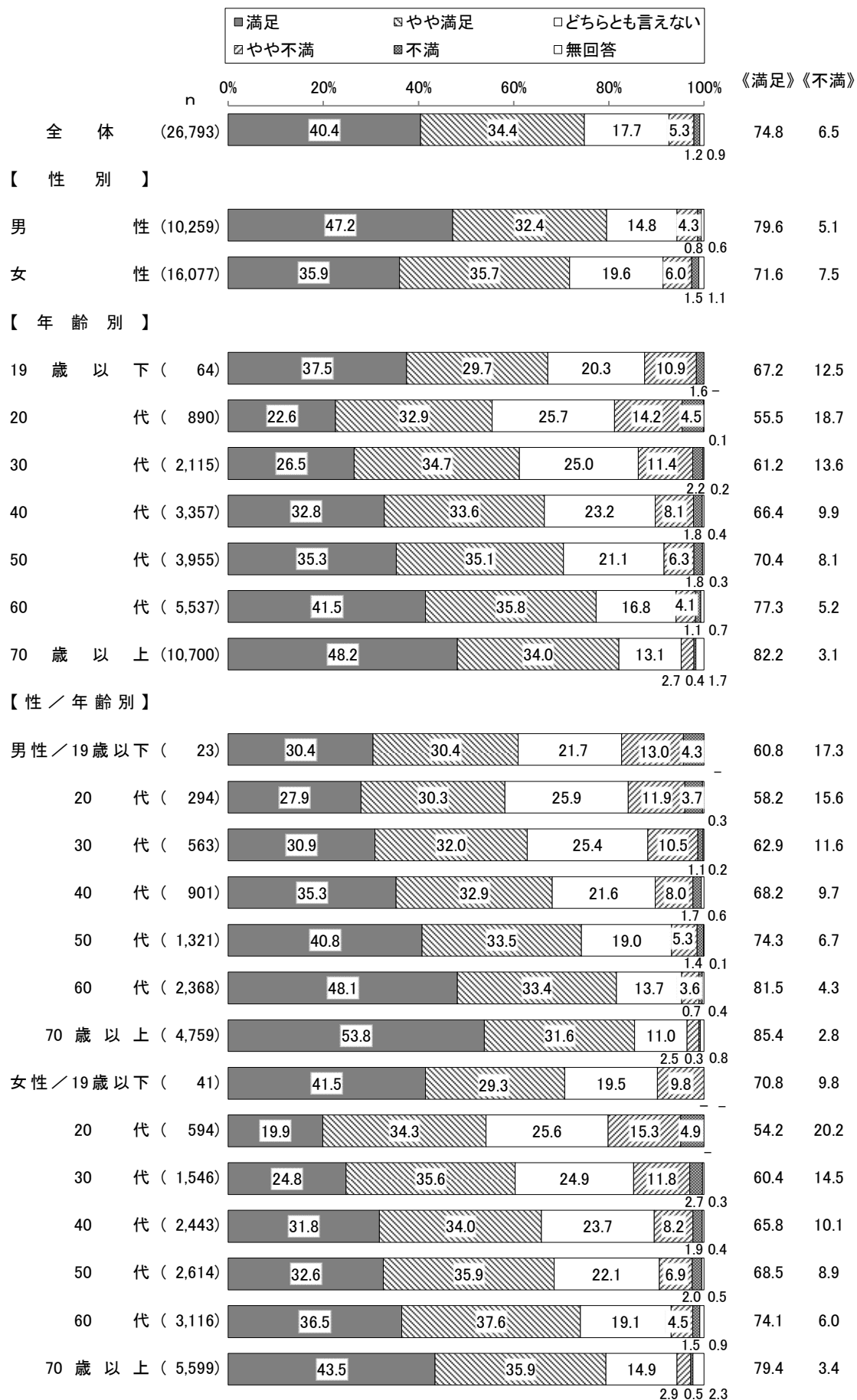
① におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-41〉



＜特徴＞

- 全体でみると、「満足」が40.4%で最も高く、「やや満足」(34.4%)を合わせた《満足》は74.8%となっている。一方、《不満》は6.5%で、「どちらとも言えない」は17.7%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で75.4%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で79.3%と最も高くなっている。

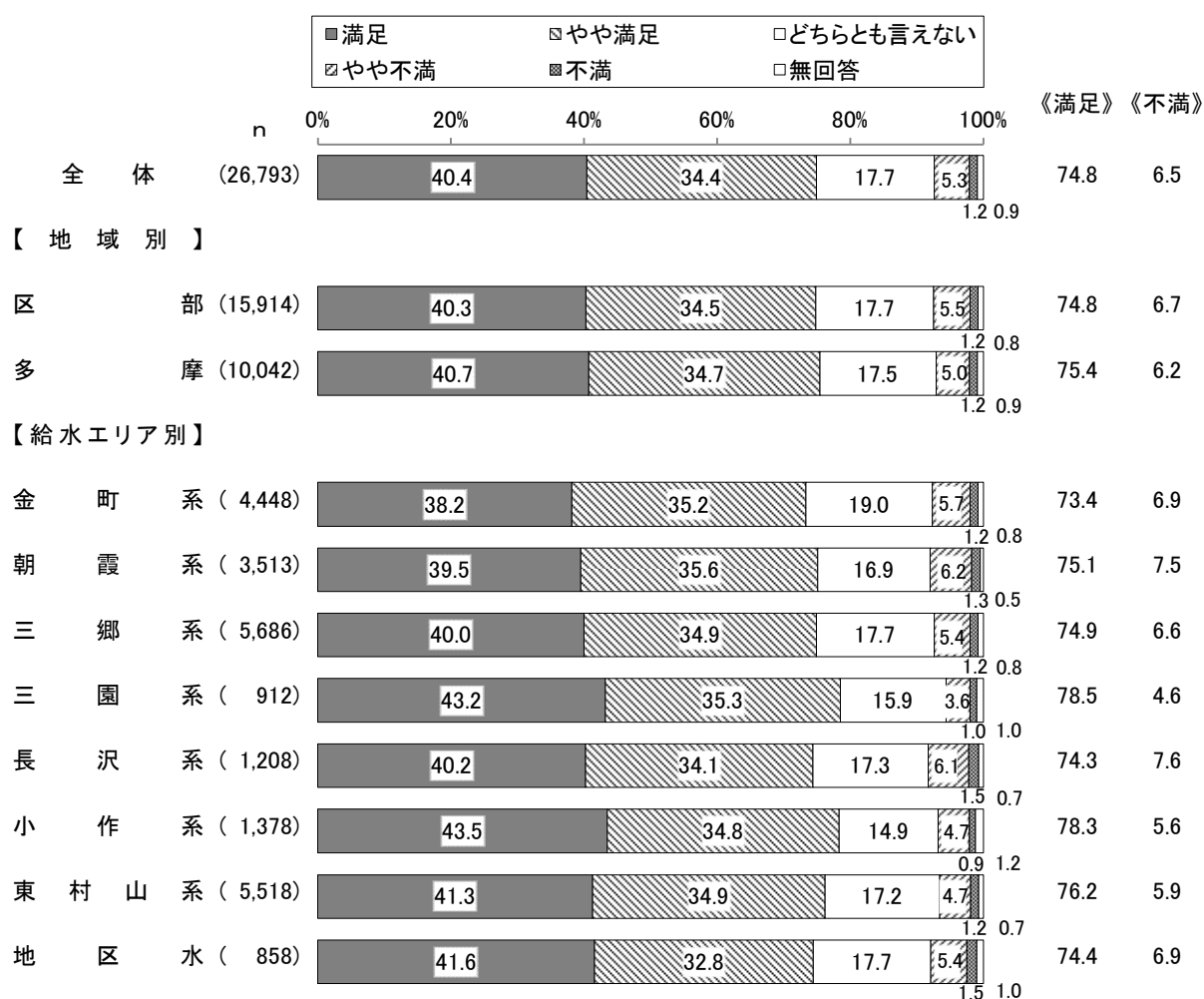
② におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（属性別）〈図表２－２－４２〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（79.6%）の方が女性（71.6%）より8.0ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、20代（55.5%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（82.2%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女ともに20代で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、男性の70歳以上（85.4%）で最も高くなっている。

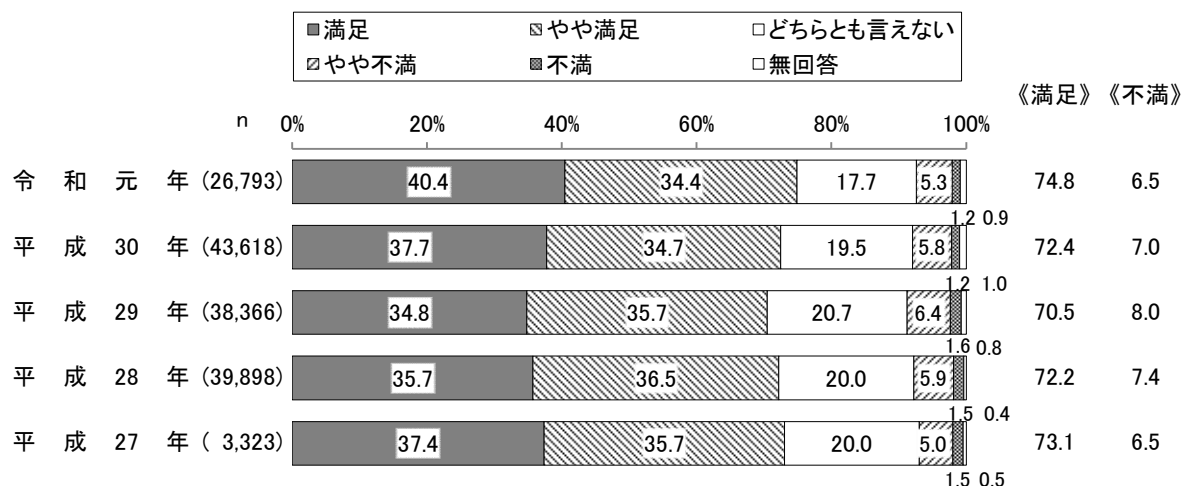
③ におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-43〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は三園系（78.5%）が最も高く、次いで小作系（78.3%）となっている。

④ におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（時系列：全体）〈図表２－２－４４〉

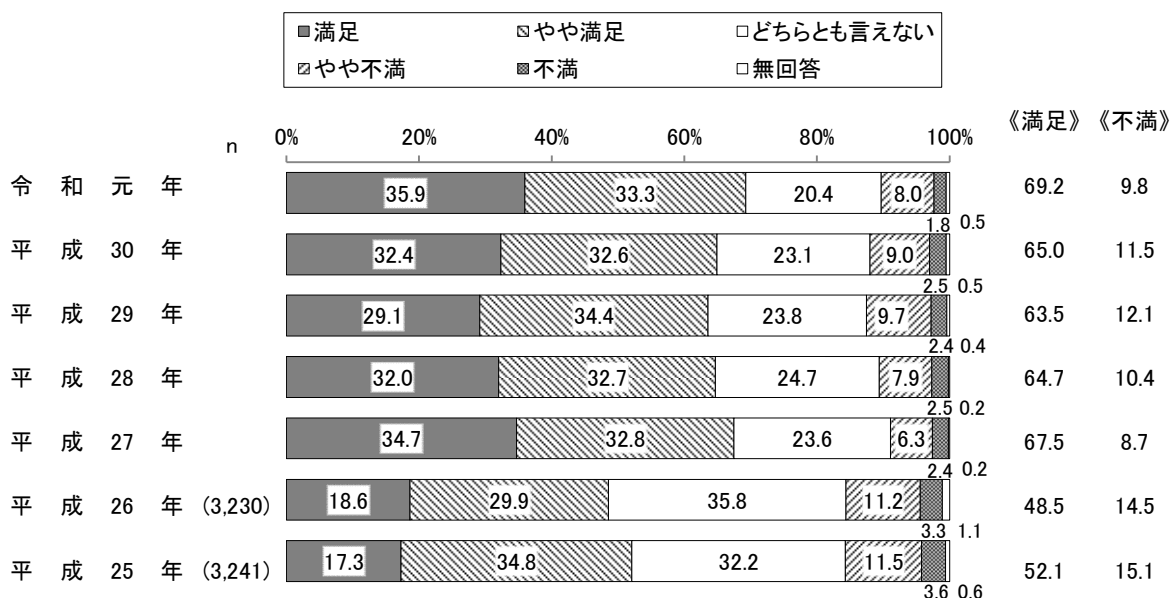


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割強から7割台半ばで推移している。

参考 におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（時系列：全体）〈図表２－２－４５〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、《満足》は69.2%となっている。「どちらとも言えない」は20.4%となっている。

(7) にごりの少なさ・透明度の満足度

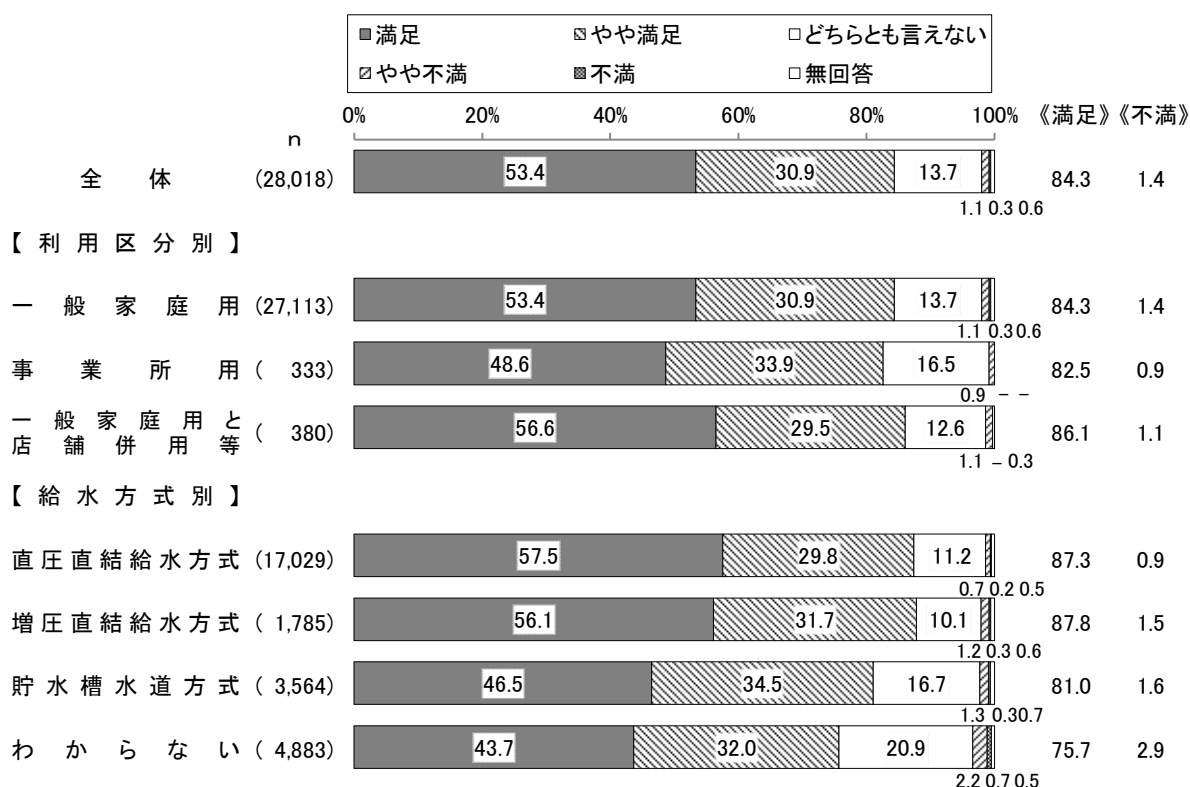
問 東京の水道水のにごりの少なさ・透明度について、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔A：問10、E：問10〕

〔調査結果〕

① にごりの少なさ・透明度の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-46〉



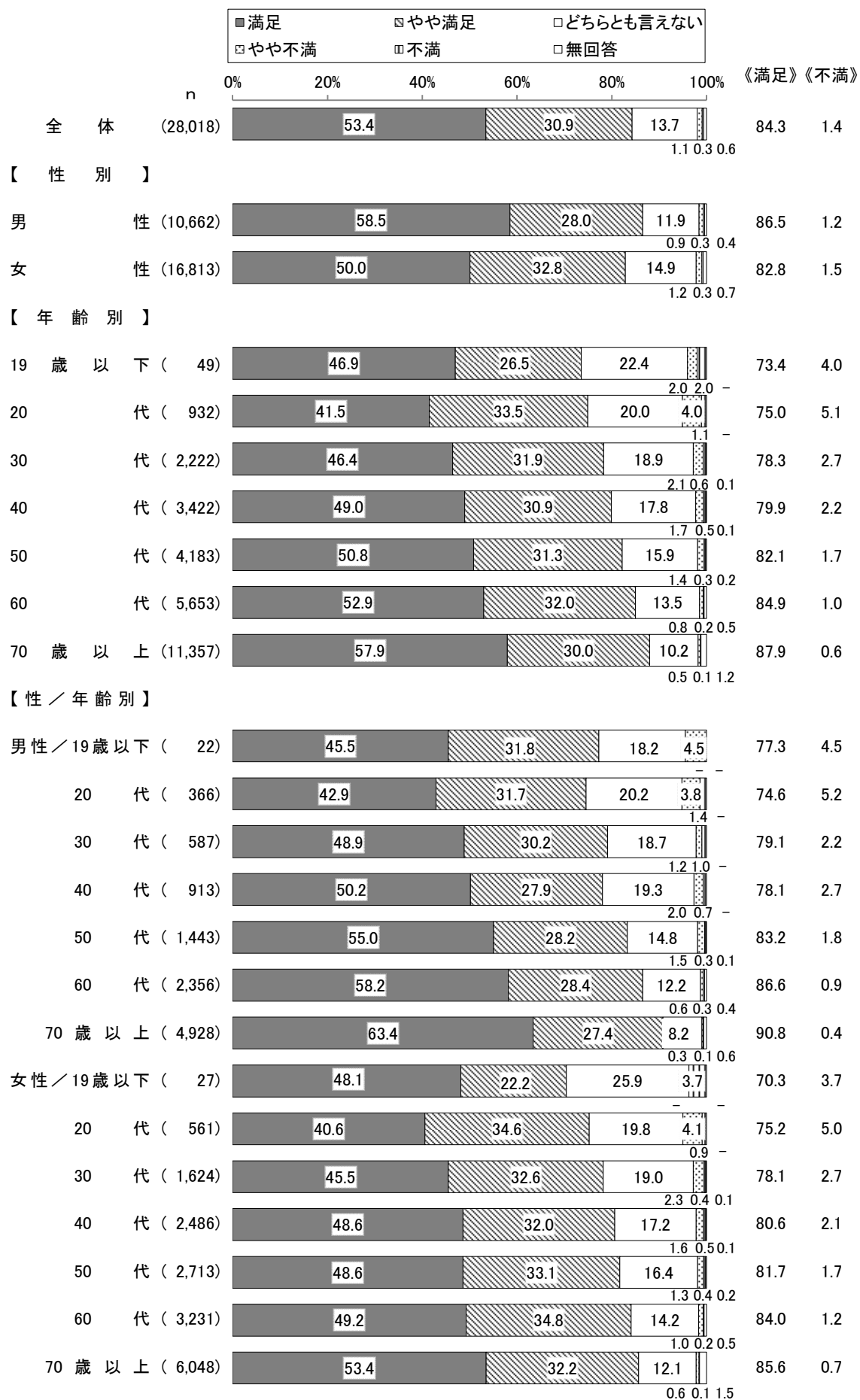
＜特徴＞

○全体でみると、「満足」が53.4%で最も高く、「やや満足」(30.9%)を合わせた《満足》は84.3%となっている。一方、《不満》は1.4%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で86.1%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、増圧直結給水方式で87.8%と最も高く、直圧直結給水方式で87.3%と続いている。

② にごりの少なさ・透明度の満足度（属性別）〈図表 2－2－47〉



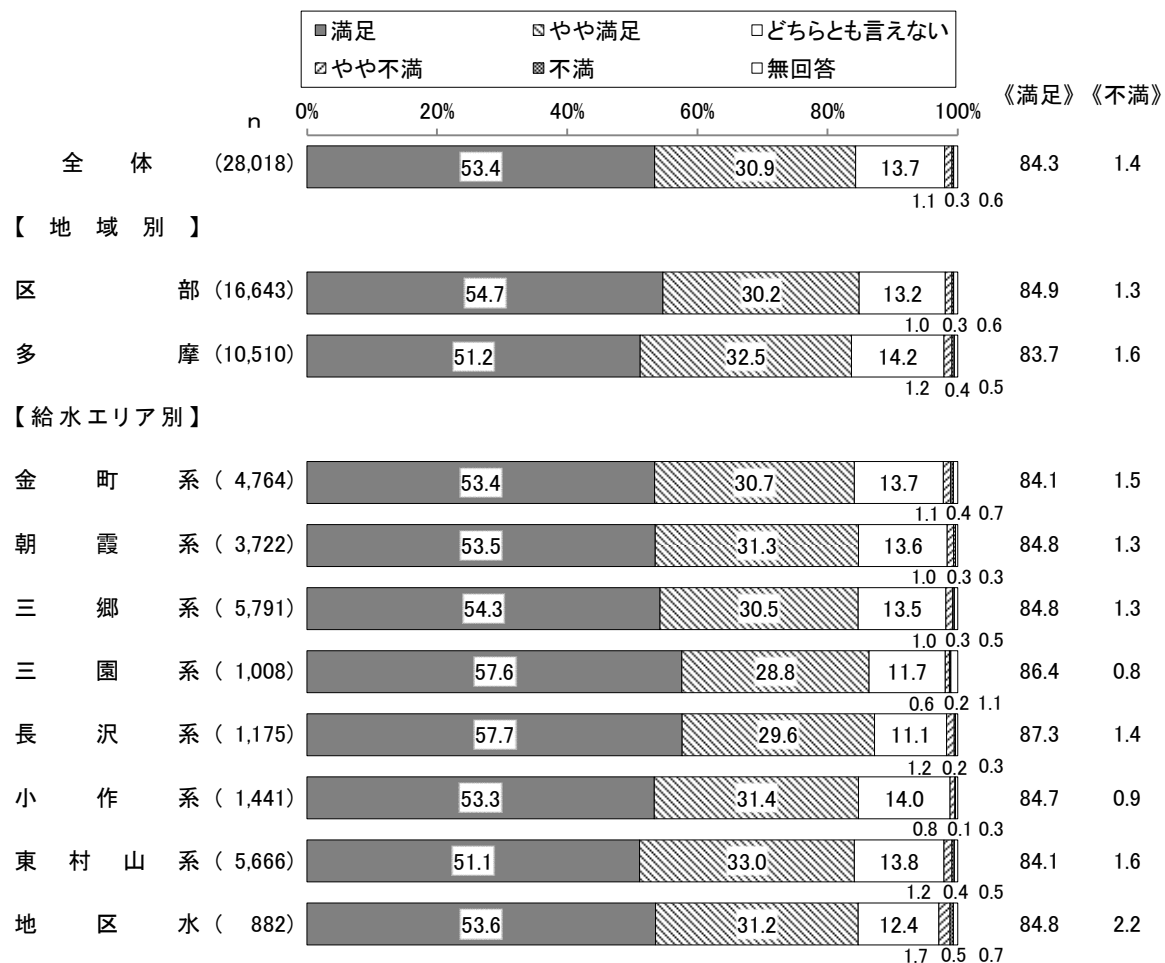
<特徴>

○性別では、《満足》は、男性（86.5%）の方が女性（82.8%）より3.7ポイント高くなっている。

○年齢別では、《満足》は、19歳以下（73.4%）で最も低く、年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（87.9%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《満足》は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれ高くなり、男性の70歳以上（90.8%）で最も高くなっている。

③ にごりの少なさ・透明度の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-48〉

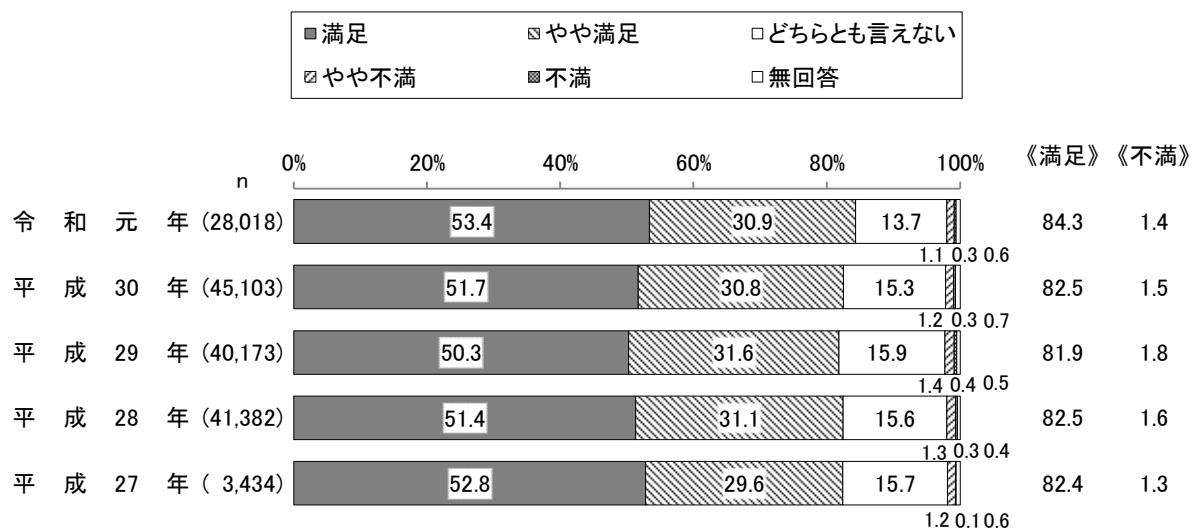


<特徴>

○地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。

○給水エリア別では、《満足》は、長沢系（87.3%）で最も高くなっている。

④ にごりの少なさ・透明度の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－４９〉



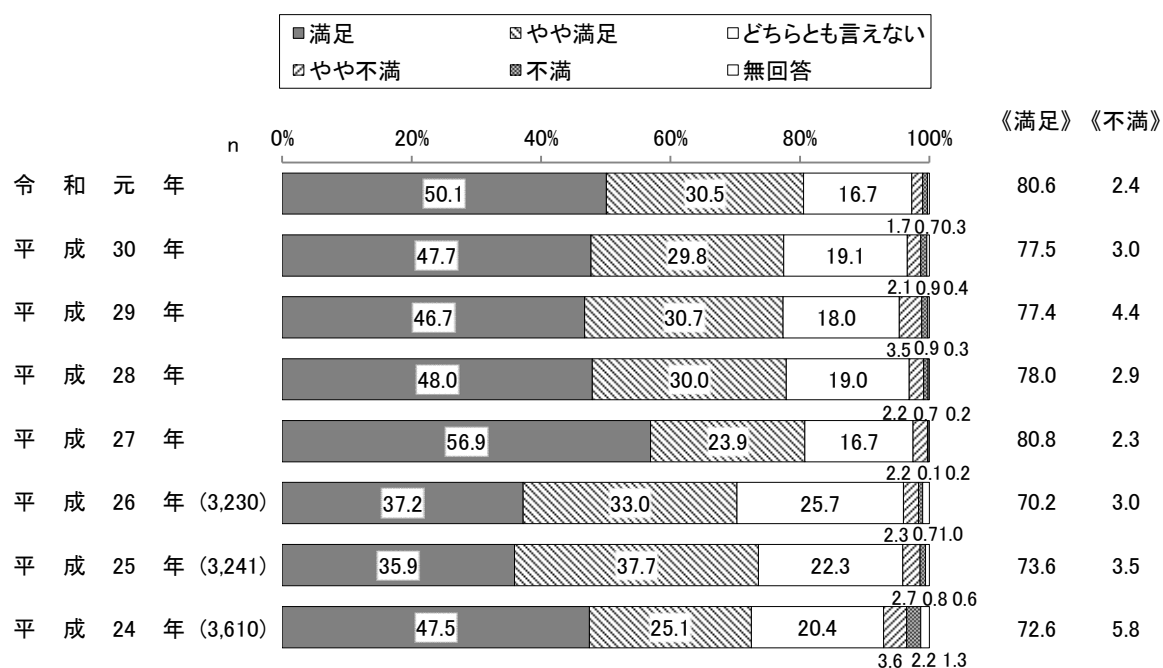
<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割強から8割台半ばで推移している。

参考

にごりの少なさ・透明度の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－５０〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、《満足》は80.6%となっている。「どちらとも言えない」は16.7%となっている。

(8) 安全性の満足度

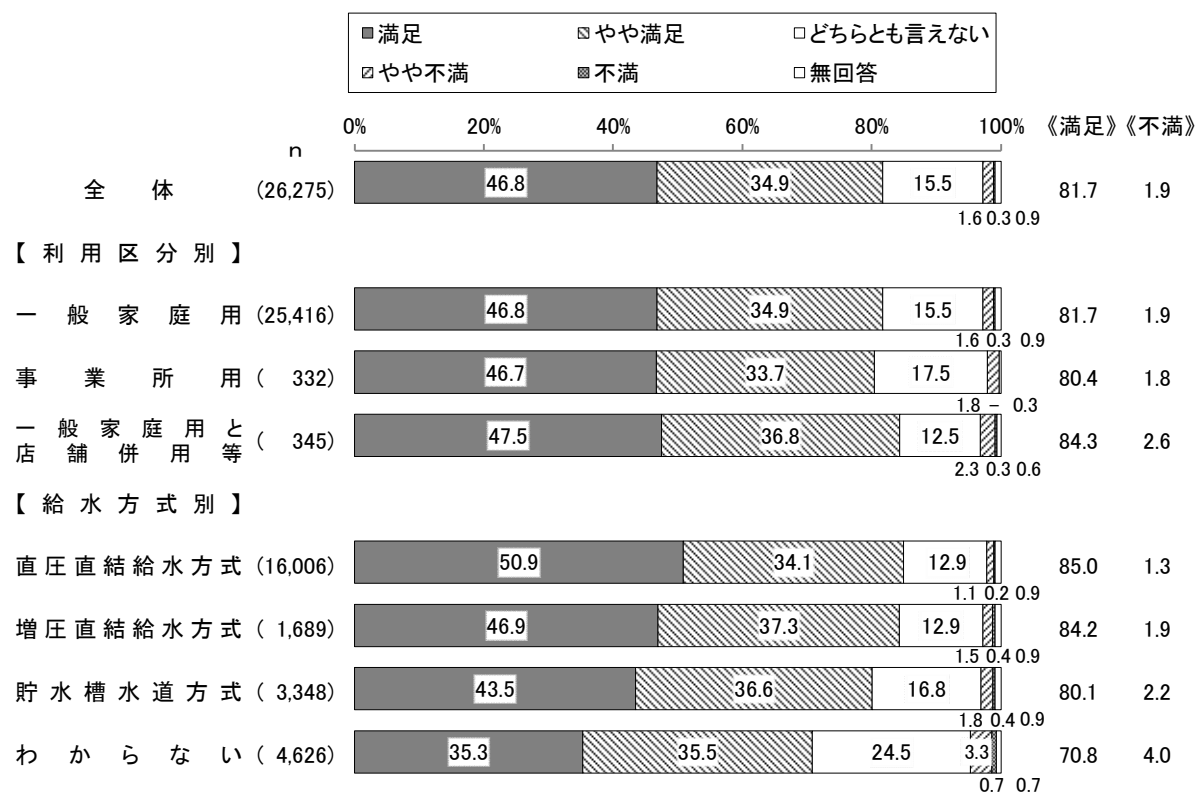
問 東京の水道水の安全性を、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[D : 問9、H : 問9]

[調査結果]

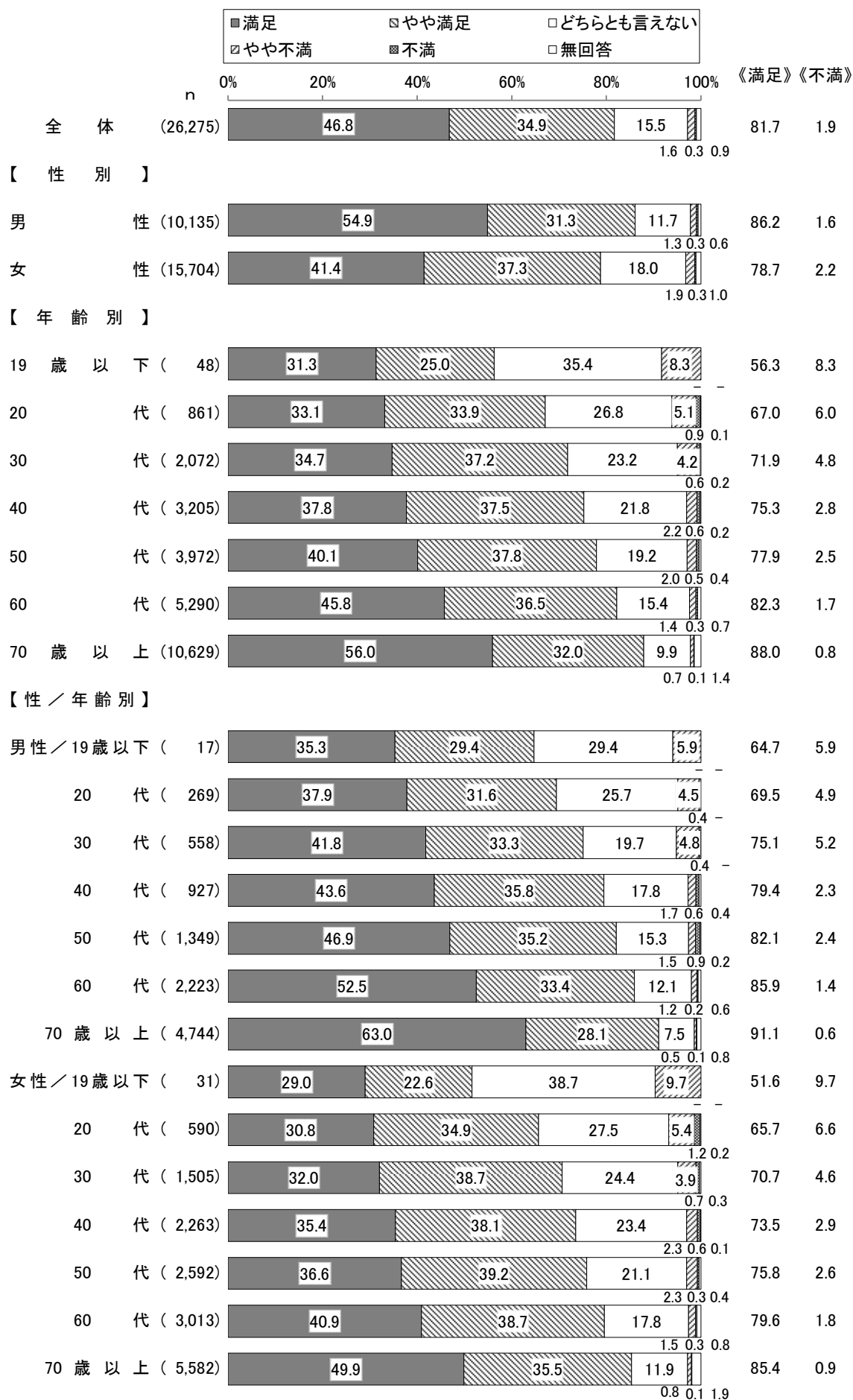
① 安全性の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-51〉



<特徴>

- 全体でみると「満足」が46.8%で最も高く、「やや満足」(34.9%)を合わせた《満足》は81.7%となっている。一方、《不満》は1.9%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で84.3%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で85.0%と最も高く、増圧直結給水方式で84.2%と続いている。

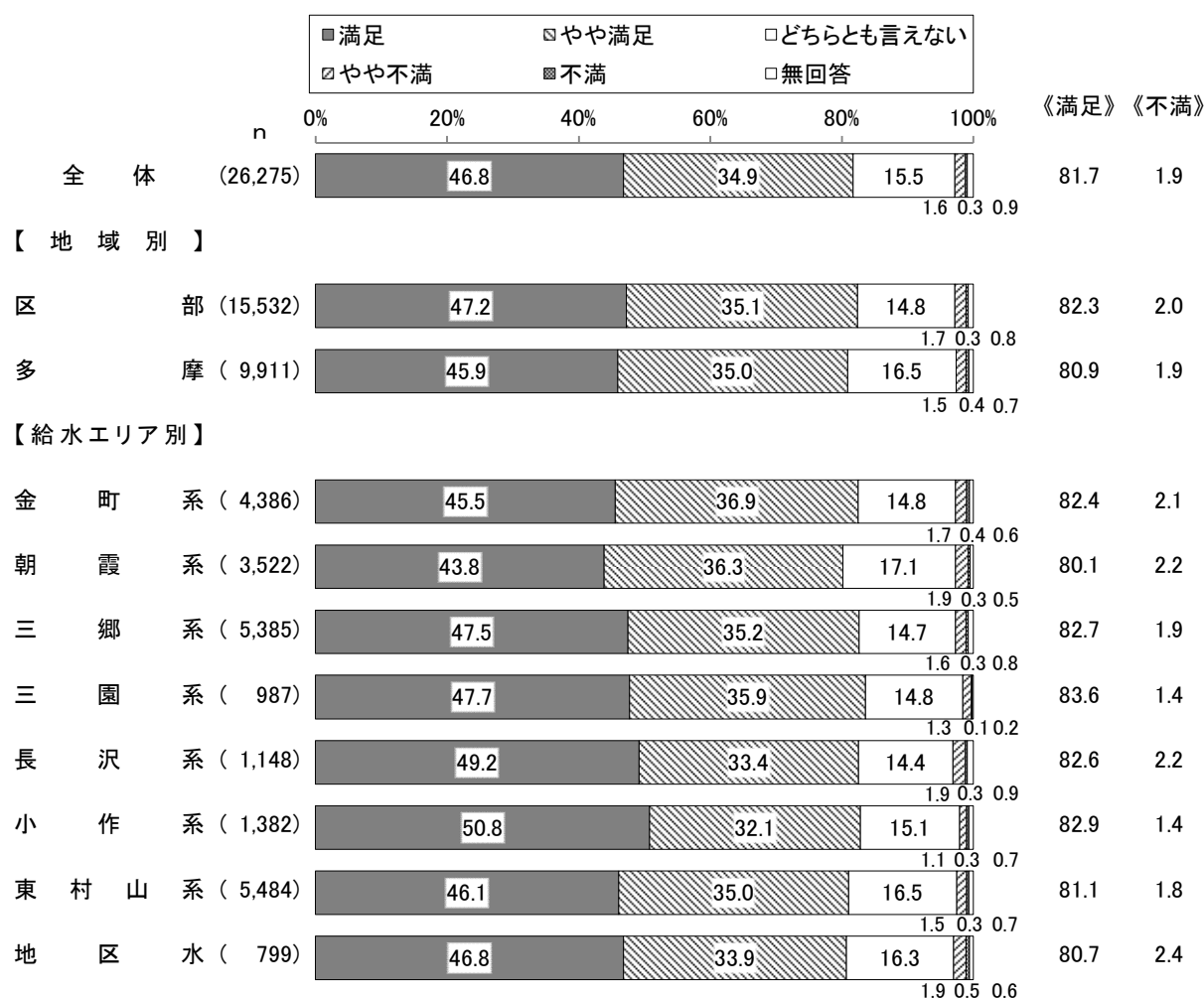
② 安全性の満足度（属性別）〈図表 2－2－5 2〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（86.2%）の方が女性（78.7%）より7.5ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（56.3%）で最も低く、年齢が上がるにつれ高くなり、70歳以上（88.0%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女ともに19歳以下で最も低く、年齢が上がるにつれ割合が高くなり、男性の70歳以上（91.1%）で最も高くなっている。

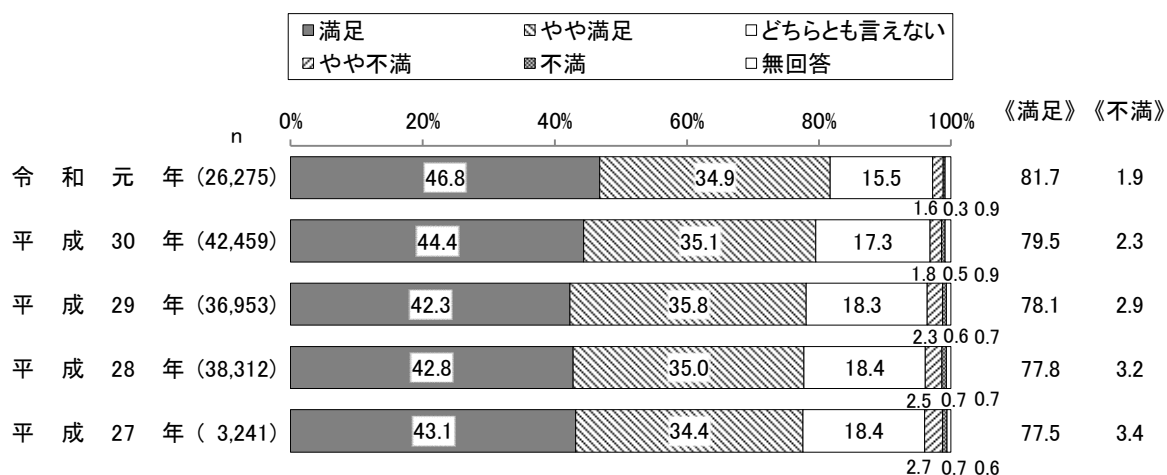
③ 安全性の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-53〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、「満足」は、小作系（50.8%）で最も高くなっているが、《満足》でみると特に大きな違いはみられない。

④ 安全性の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－5 4〉

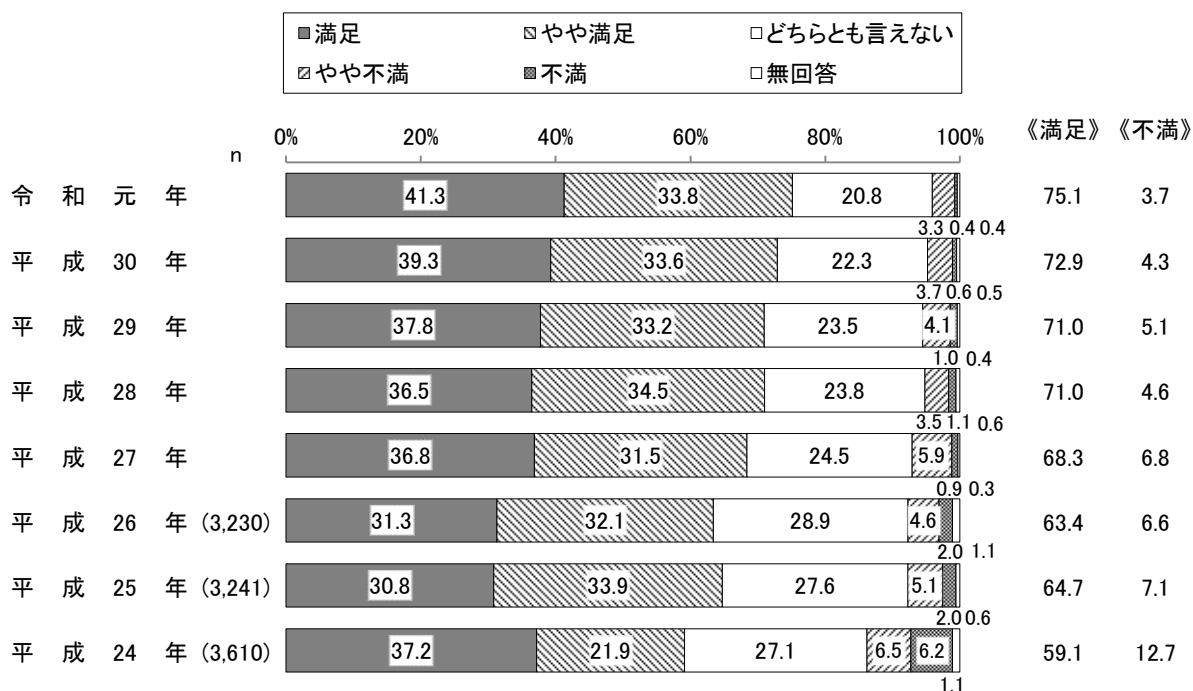


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度と令和元年度を比較すると、《満足》が4.2ポイント増加している。

参考 安全性の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－5 5〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、《満足》は75.1%となっている。「どちらとも言えない」は20.8%となっている。

(9) 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度

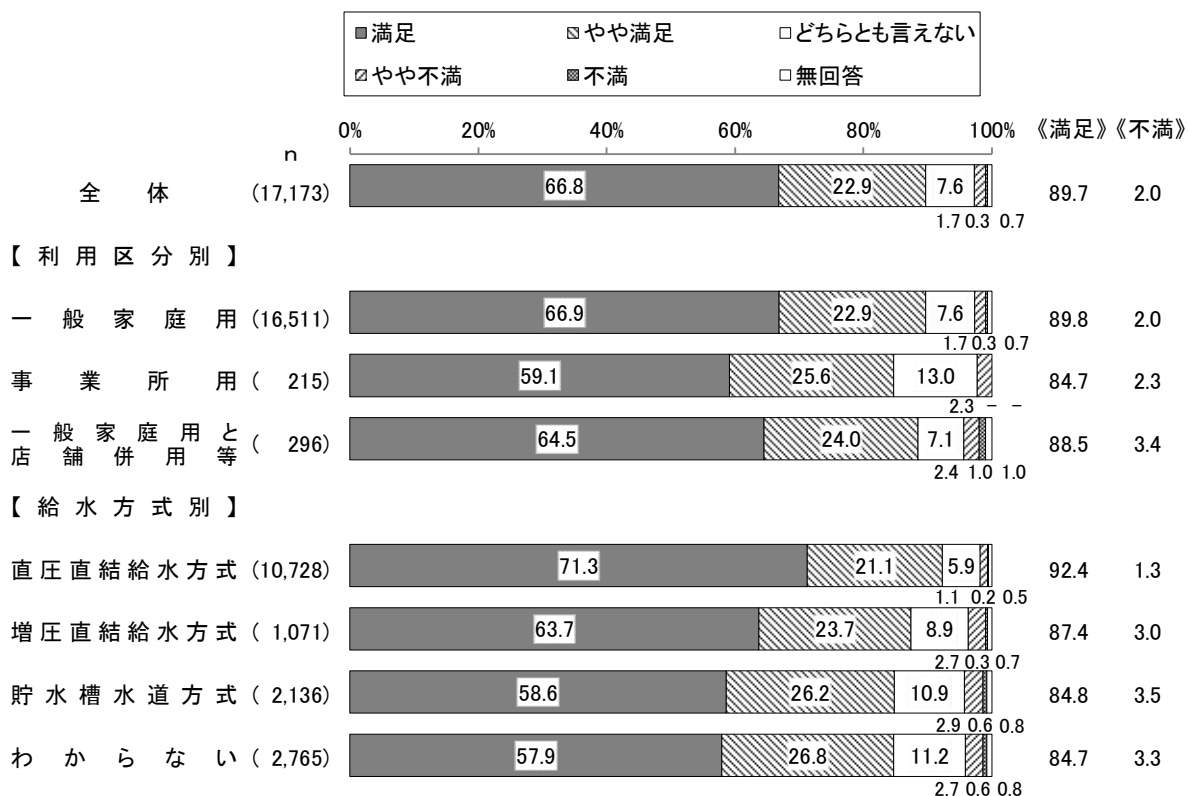
問 東京の水道水の出具合（水量・水圧）を、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔C：問11〕

〔調査結果〕

① 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-56〉



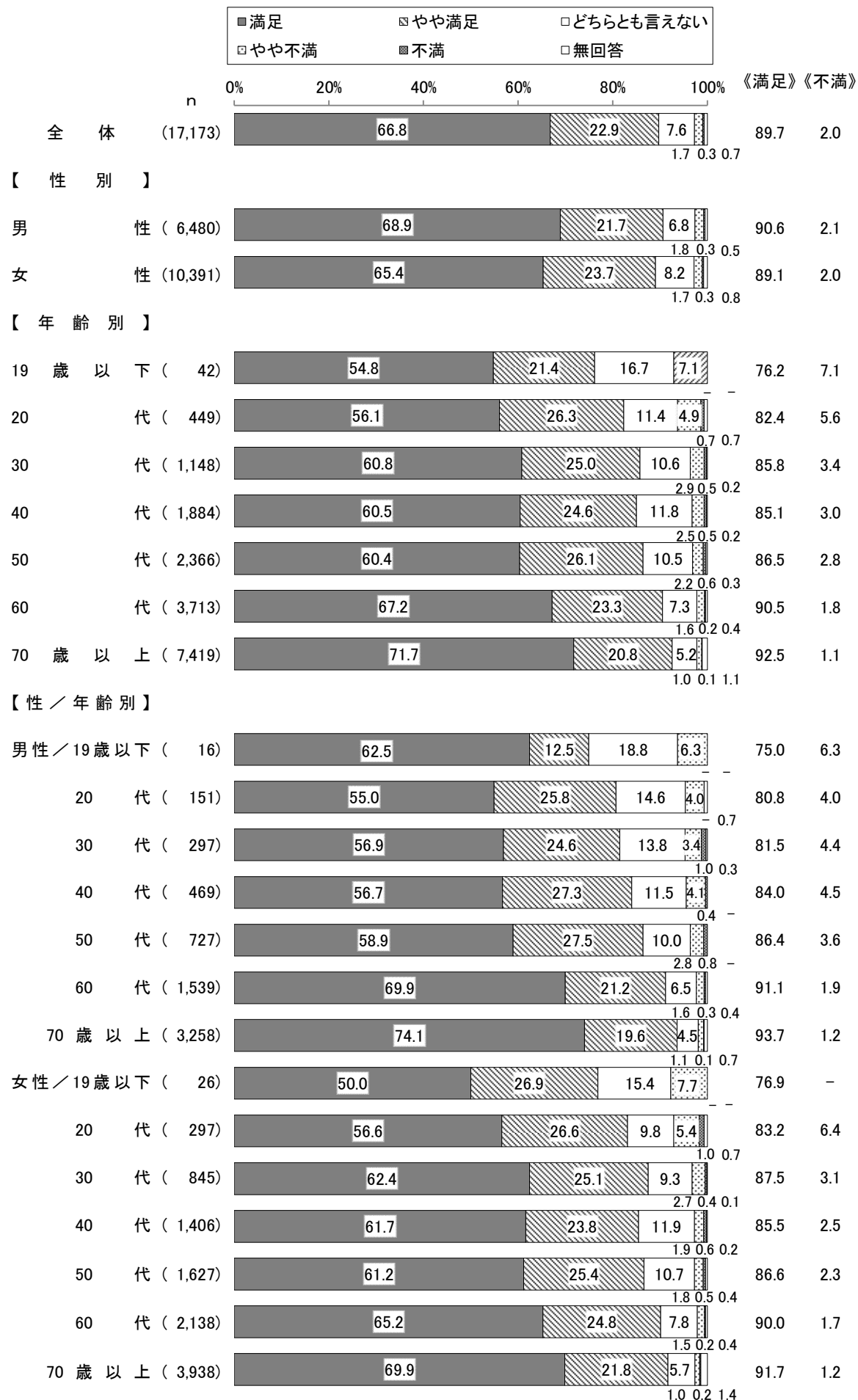
＜特徴＞

○全体でみると「満足」が66.8%で最も高く、「やや満足」(22.9%)を合わせた《満足》は89.7%を占めている。一方、《不満》は2.0%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用で89.8%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で92.4%と最も高くなっている。

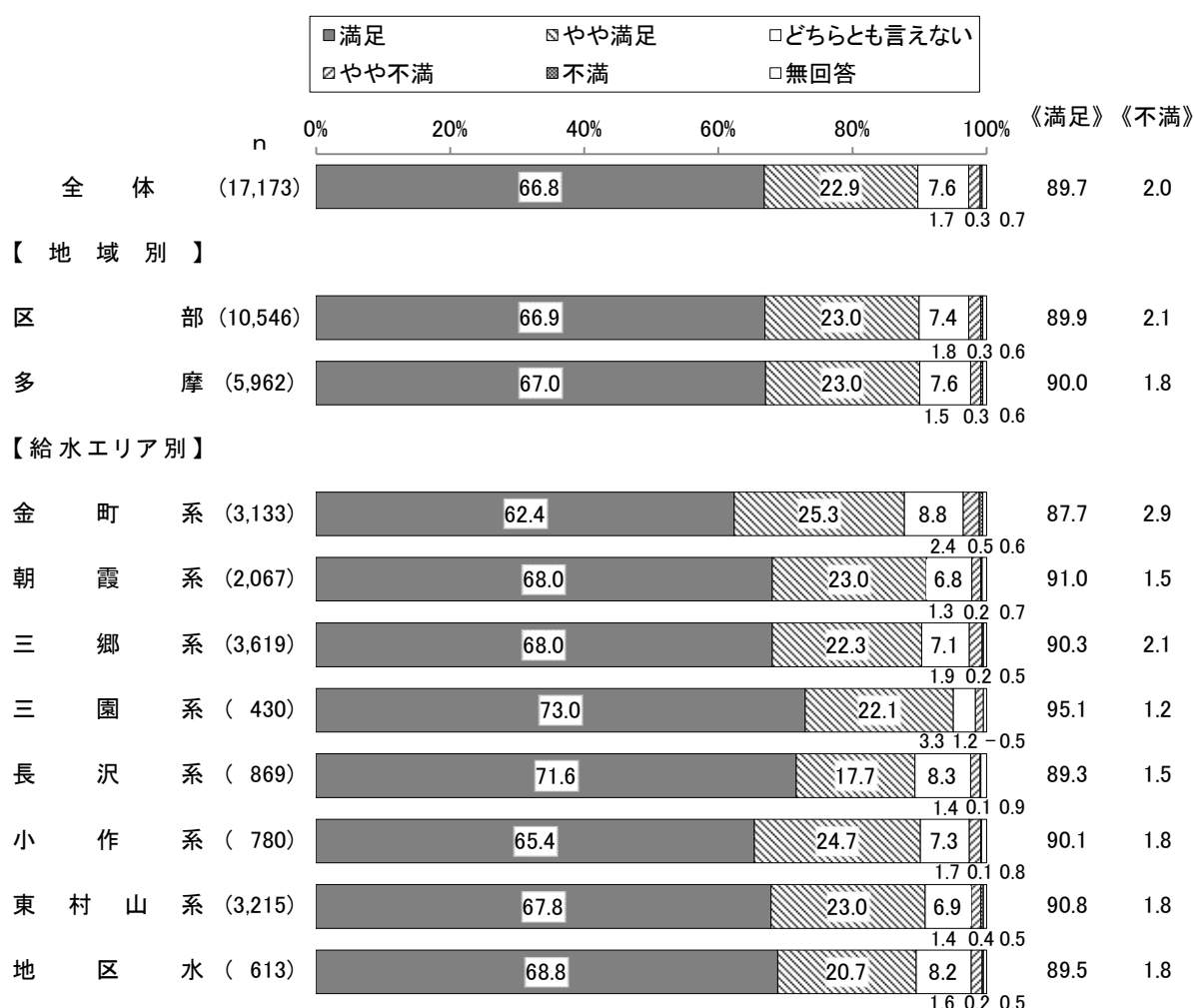
② 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（属性別）〈図表２－２－５７〉



<特徴>

- 性別では、「満足」で男性（68.9％）の方が女性（65.4％）より3.5ポイント高くなっているが、《満足》では特に大きな違いはみられない。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（76.2％）で最も低く、おおむね年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（92.5％）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女ともに19歳以下で最も低く、年齢が上がるにつれ割合が高くなり、男性の70歳以上（93.7％）で最も高くなっている。

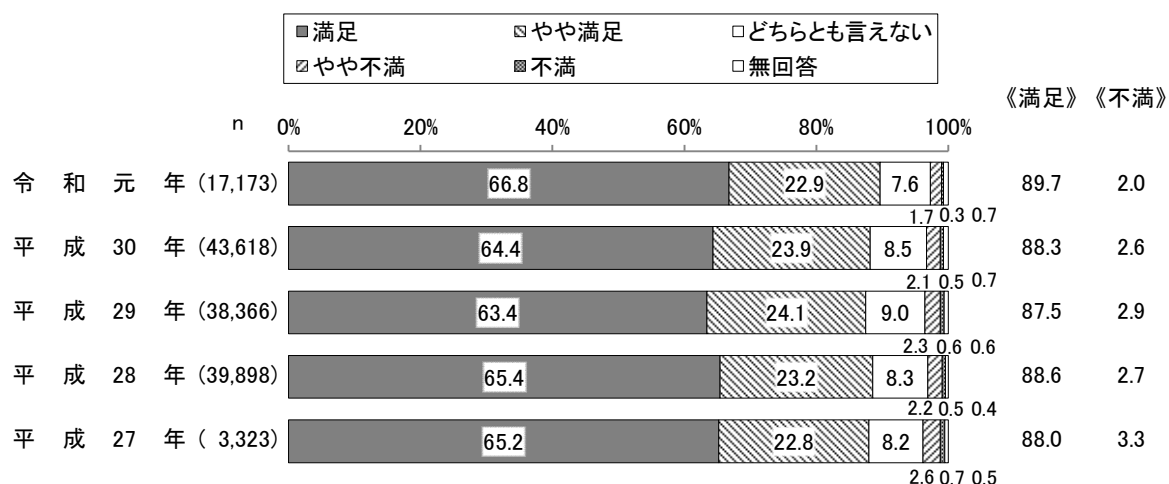
③ 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-58〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、三園系（95.1％）で最も高くなっている。

④ 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－５９〉

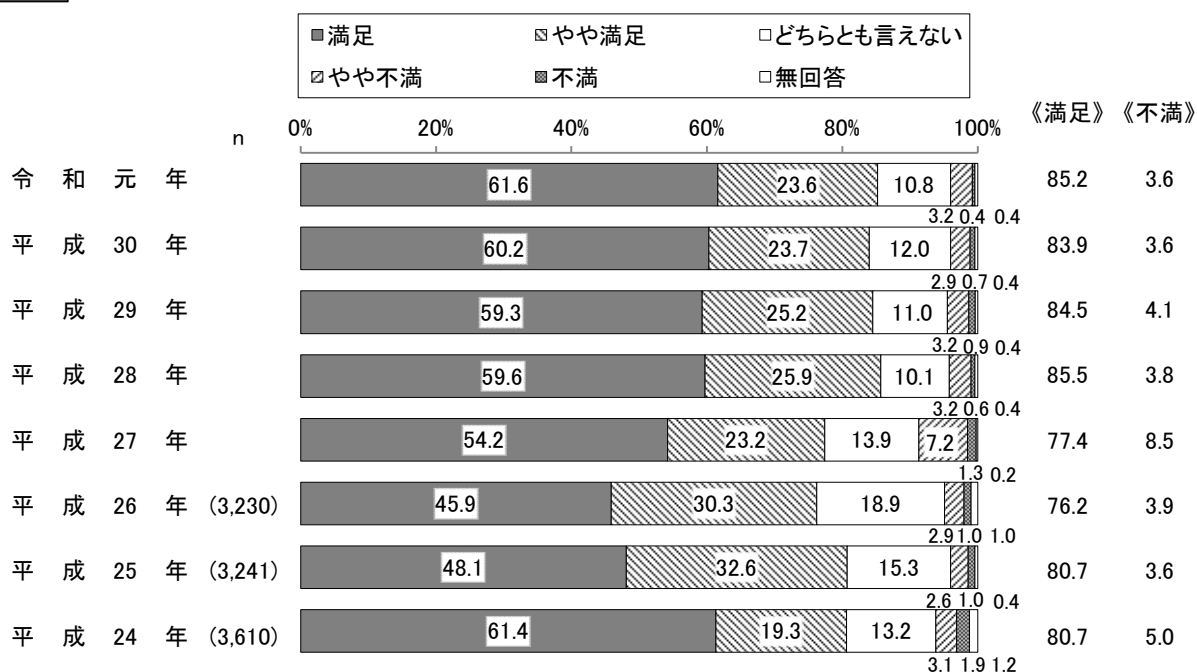


＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が9割近く、「どちらとも言えない」が1割近くで推移している。

参考 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－６０〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査をみると、《満足》は85.2%となっている。「どちらとも言えない」は10.8%となっている。

(10) 水質に対する満足度に関する詳細分析

① 飲み水としての水質の満足度と味やにおいなどの満足度との関係

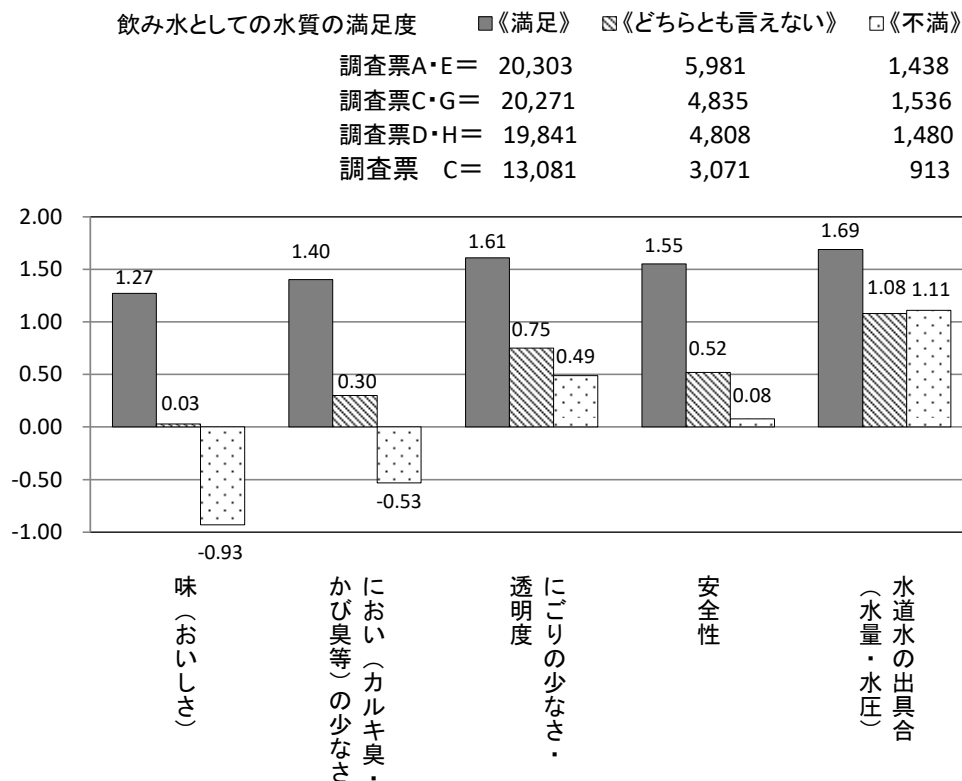
○味やにおいなどの満足度とは、「味（おいしさ）」、「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」、「にごりの少なさ・透明度」、「安全性」、「水道水の出具合（水量・水圧）」の5項目での満足度をいう。

○飲み水としての水質の満足度と、味やにおいなどの満足度の関係性をみるに当たって、味やにおいなどの比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、平均点を算出した。

$$\text{平均点} = \frac{[\text{「満足」} \times 2 \text{ 点}] + [\text{「やや満足」} \times 1 \text{ 点}] + [\text{「どちらとも言えない」} \times 0 \text{ 点}] + [\text{「やや不満」} \times (-1 \text{ 点})] + [\text{「不満」} \times (-2 \text{ 点})]}{\text{回答者数} - \text{無回答}}$$

この算出方法では、平均点は-2.00点から2.00点の間に分布し、0.00点が中間点であり、2.00点に近いほど満足度は高く、逆に-2.00点に近いほど満足度が低いということを表す。

〈図表2-2-61〉



〈特徴〉

○味やにおいなどの満足度について、飲み水としての水質に《満足》と回答した人では、5項目全てが1.00点以上の満足度となっているが、「味（おいしさ）」と「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」が、他の3項目に比べるとやや低い。一方、水質に《不満》と回答した人では、「味（おいしさ）」と「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」での満足度がマイナスとなっており、「味」と「におい」が飲み水としての水質の評価を左右しているといえる。

(11) 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度

問 水道水に関して、法令で安全のため水質検査項目が定められており、その項目数はミネラルウォーターより多いことを知っていますか。

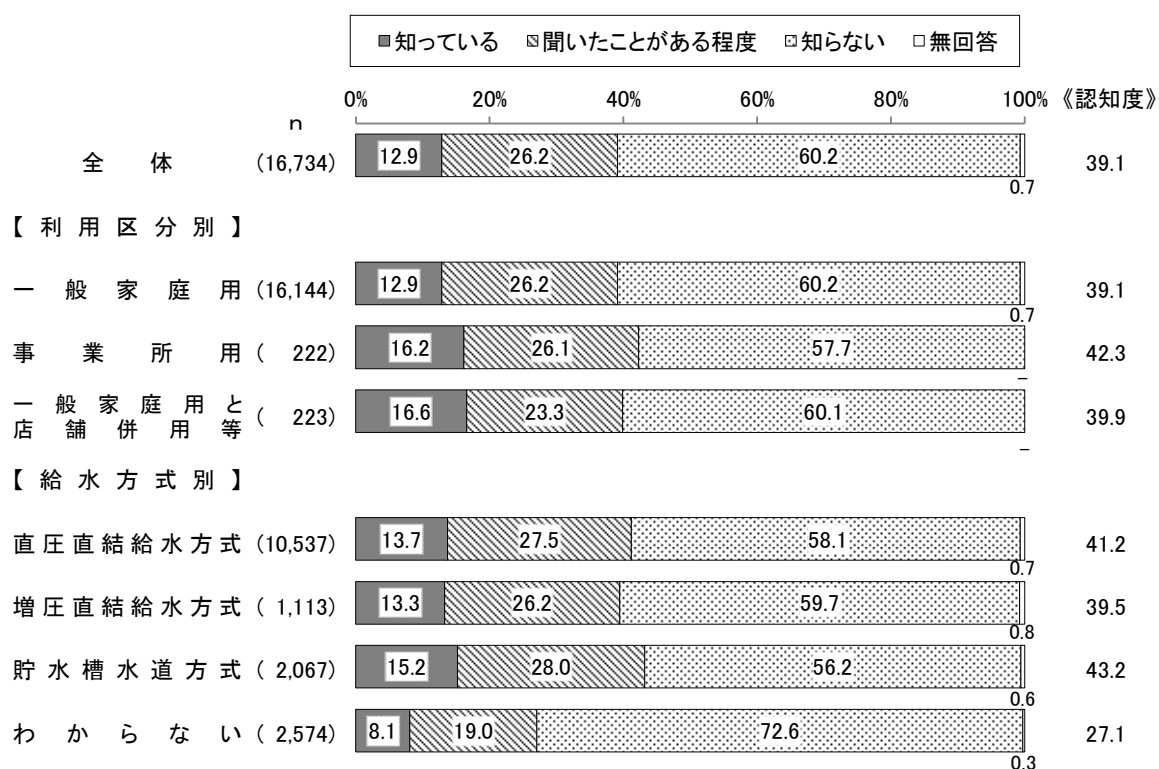
1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

[D : 問 10]

[調査結果]

① 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（利用区分別、給水方式別）

〈図表2-2-62〉

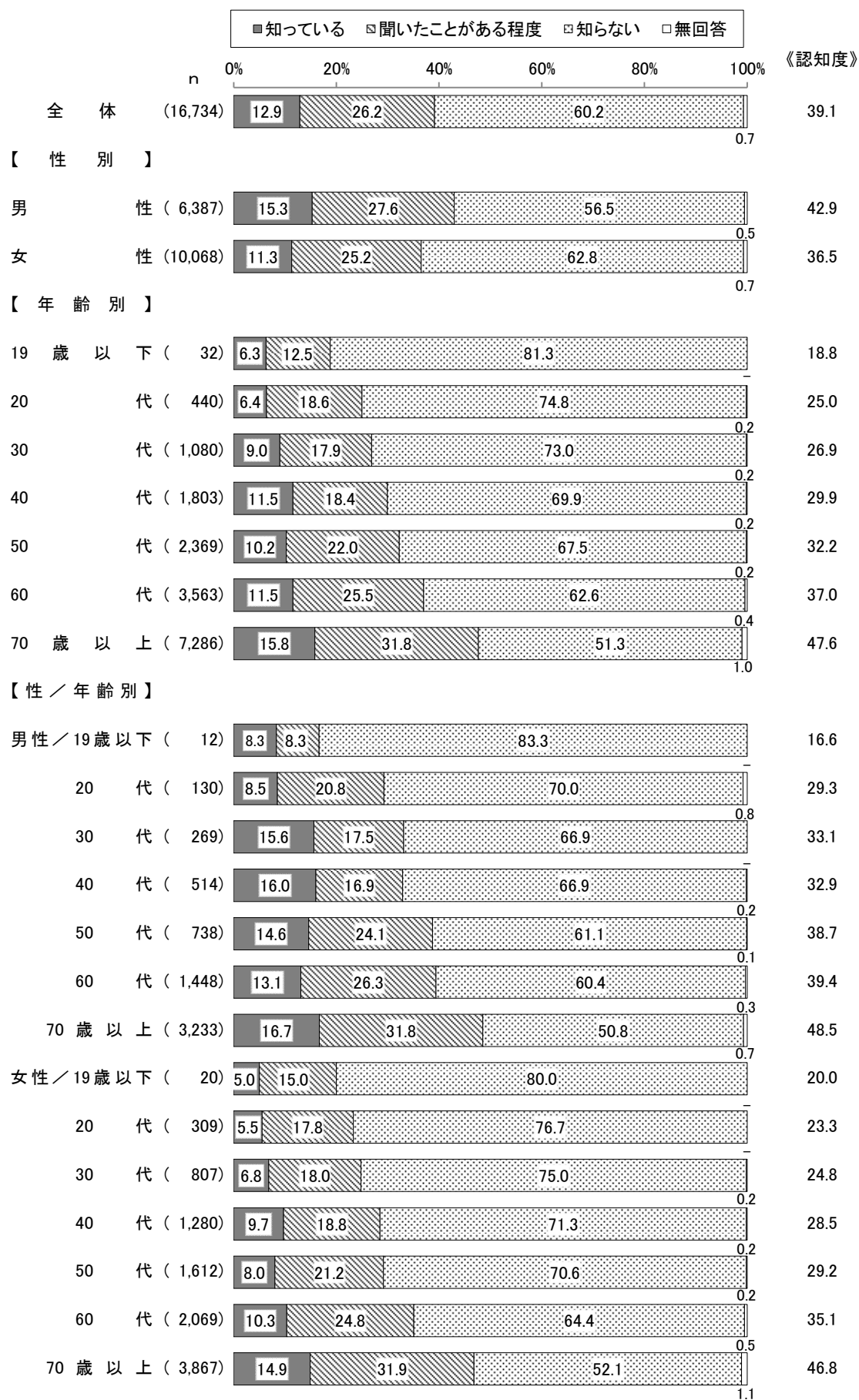


＜特徴＞

- 全体でみると、「知らない」が60.2%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が26.2%で、「知っている」(12.9%)を合わせた《認知度》は39.1%となっている。
- 利用区分別では、《認知度》は、事業所用で42.3%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《認知度》は、貯水槽水道方式で43.2%と最も高く、直圧直結給水方式で41.2%と続いている。

② 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（属性別）

〈図表 2-2-63〉

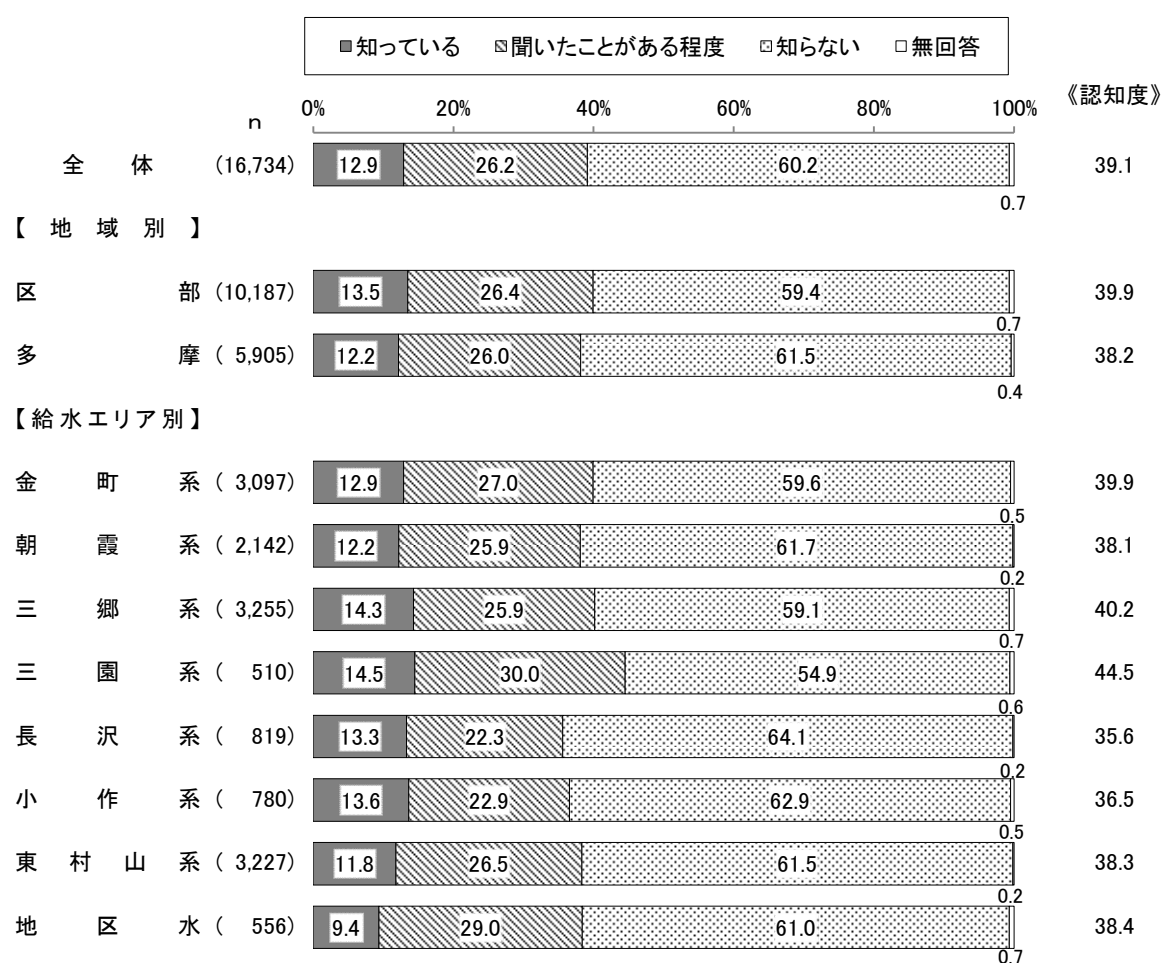


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（42.9%）の方が女性（36.5%）より6.4ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、19歳以下（18.8%）で最も低く、年齢が上がるにつれ高くなり、70歳以上（47.6%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女ともに年齢が上がるにつれ高くなり、男性の70歳以上（48.5%）で最も高くなっている。

③ 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（地域別、給水エリア別）

〈図表2-2-64〉

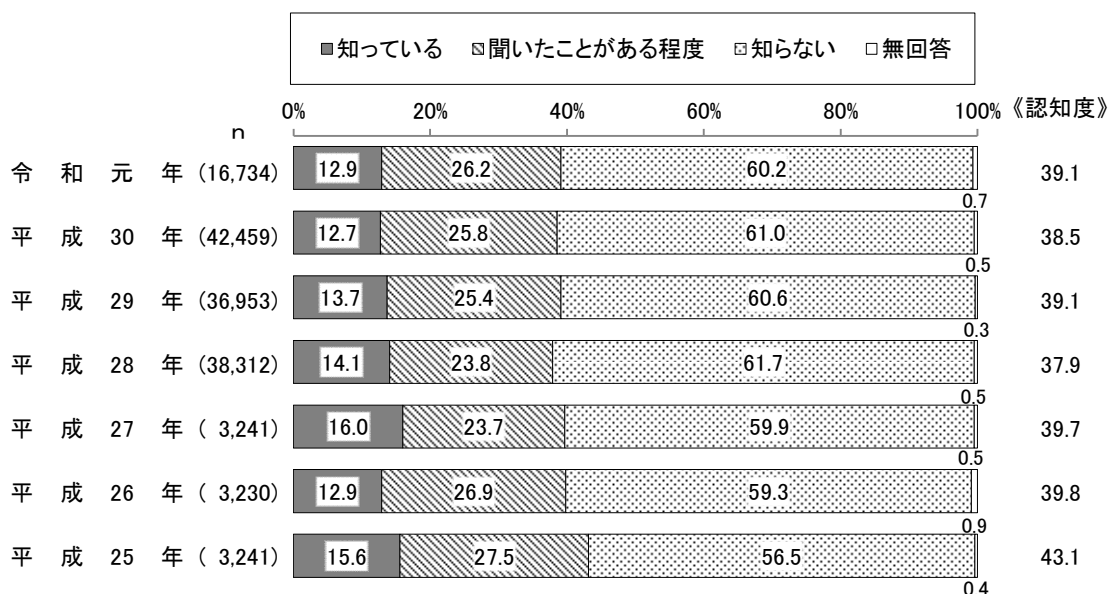


<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、三園系（44.5%）で最も高くなっている。

④ 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（時系列：全体）

〈図表 2-2-65〉



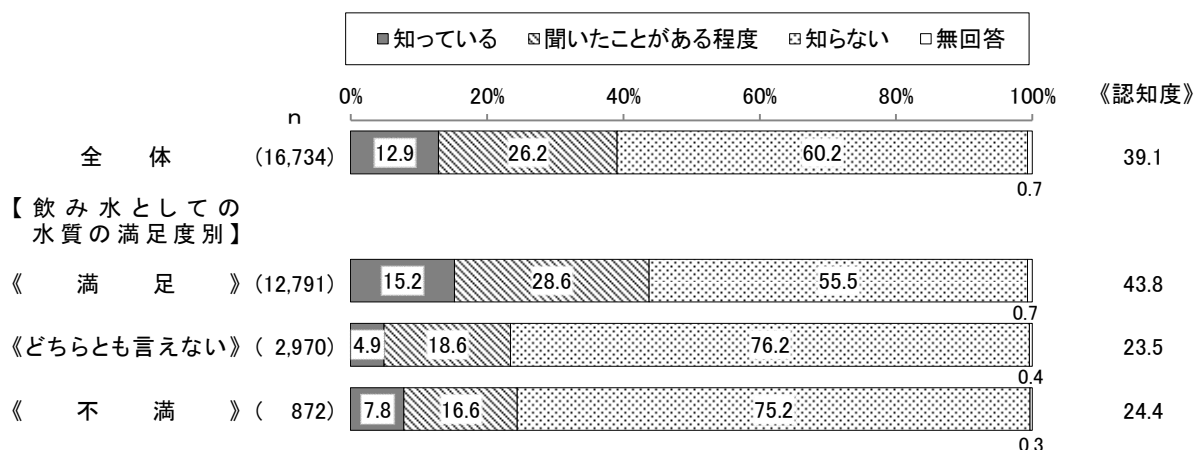
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》は4割弱で推移している。

〔詳細分析〕（分析の軸はD票の設問）

⑤ 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（飲み水としての水質の満足度別）〈図表 2-2-66〉



＜特徴＞

○飲み水としての水質の満足度別では、「知っている」は、飲み水としての水質に《満足》な人（15.2%）の方が、《不満》な人（7.8%）より7.4ポイント高くなっている。また、飲み水としての水質に《満足》な人で「知っている」と「聞いたことがある程度」（28.3%）を合わせた『認知度』は43.8%となり、《不満》な人（24.4%）より19.4ポイント高くなっている。